



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 近年のICT機器の普及により、公民館利用者から、インターネットを利用できる環境の要求が高まっていたこと。また、新型コロナウイルス感染症拡大による学校閉鎖に伴い、オンラインを活用した家庭学習が求められる中、自宅のWi-Fi環境が整っていない児童・生徒の利用に供する対応が求められていた。
- 対面で開催していた公民館事業が、新型コロナウイルス感染症の影響で中断・中止となり、市民の学びを止めないための方策が必要だった。
- スマートフォンは、単に電話としての機能を有するだけではなく、今後の生活をより豊かにするツールとなり得ることから、特に高齢者への普及・啓発が課題だった。
- 新型コロナウイルスワクチン接種のWeb予約にあたり、端末を持たない市民や、操作方法が分からない市民への支援が課題だった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- デジタル基盤の整備
 - ・オンライン講座の開設に向け、最初に職員のオンライン活用スキルを高めるための研修を数回にわたって行った。並行して市民が活用しやすいオンラインアプリの使用について、市担当課と協議を重ねた。
 - ・公民館にWi-Fi機器を設置し、利用者が個人の機器でインターネットを利用できる環境を整えた。
- オンラインによる講座の開設

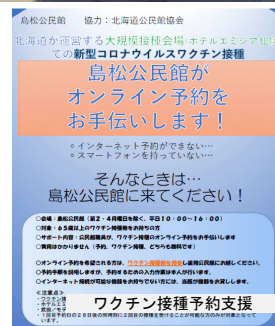
「市民講座」事業（年間4会場18講座）のうち、「英会話」の初級及び中級講座については、Web会議サービス「Zoom」を活用し、オンラインの特性を生かして定員や開設時間を縮小し、代わりに各級ともに2講座ずつ、計4講座を開設することができた。
- 初心者のためのスマートフォン教室の開催

通信業者の協力により、これからスマートフォンを始めたい人、スマートフォンを持っているが使い方がよくわからない人を対象に、基本操作を学び、カメラやマップ等の人気アプリを体験する内容で、市内3地区各2回計6回実施した。
- 新型コロナウイルスワクチン接種のWeb予約入力支援協力

公民館に特設の入力支援コーナーを設け、自分でWeb予約ができない、またはパソコンやスマートフォンを持っていない高齢者に、公民館職員がオンライン予約の支援を行った。



市民講座英会話 説明会



3. 取組による成果や効果

- デジタル基盤の整備により、小中高生では学習や調べもの、ニュースの閲覧、各種講座では講師や会員がインターネットの画面を参考資料等に使用するなど、来館者の利便性が図られた。
- オンライン英会話講座では、会場に来ることなく講座を受講できたため、新型コロナウイルス感染症に対する不安を軽減することができた。また、講師の移動に伴う負担も減らすことができた。
- スマートフォン教室終了後のアンケート調査では、「内容がよく分かった」との回答が60.8%、「来年度も参加したい」との回答が33.3%あり、市民のニーズが確認できたため、次年度以降も重点的な事業として継続することとなった。
- 新型コロナウイルスワクチン接種のWeb予約支援により、市民の予約作業への不安を軽減することができた。



オンラインを活用した英会話講座の様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

恵庭市公民館運営審議会において、地域課題や市民のニーズに基づいて年度ごとに事業の検証を行い、改善方法について検討を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

市民の学習活動へのきっかけづくりとするための「市民講座」事業をはじめとした各種事業の提供機会の充実を図るとともに、「市民講座」での活動を経て自主的なサークル活動へのステップアップを育成支援するなど、公民館が地域における身近な社会教育活動の拠点として、市民の日常生活の向上や、明るく家庭、住みよい地域社会づくりに寄与することを目指している。また、地域とともにある公民館として、地区住民が島松公民館を活用して実施する公民館運動会や子どもサマーキャンプ、文化祭、囲碁・将棋大会など地域住民による主体的な活動「分館活動」を積極的に支援している。



市民講座 華道地坊

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

ICT技術の発達は、今後、より一層私たちの生活に密着してくことから、ICT機器のさらなる活用に資する学習機会の設定について、積極的に取り組みたい。その際、事業によっては、地域の高等学校や近隣の大学・専門学校と連携し、学生を講師として活用することで、異年齢の交流促進にもつなげていきたい。



ICT活用に向けた取組

オンラインで「いつでもつながる」

名寄市民文化センター



名寄市民文化センター外観
(左側が西館(大ホール))



生涯学習フェスティバルinなよろ (体験教室のようす)

公民館の沿革・年表

(名寄市公民館)

- 昭和23年1月 名寄公民館設置 (旧厚生会館内)
- 昭和31年4月 名寄市公民館設置 (市制施行)
- 昭和37年6月 名寄市民会館開館に伴い、移転

(名寄市民文化センター)

- 昭和55年5月 名寄ピヤシリ大学開学
- 昭和58年8月 名寄市民文化センター開館
- 平成27年5月 大ホール(西館)開館

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 名寄市民文化センター
 - ・大ホールの愛称であるEN-RAY (エンレイ) の由来は、当市の花「オオバナノエンレイソウ」にちなむ。
 - ・貸室全室にWi-Fi環境を整備している。
(端末同時接続台数32~128台/AP)
- 生涯学習フェスティバルinなよろ
 - ・サークルや文化団体の活動発表や体験教室を行い、活動の発展を促す。

1. 都道府県名	北海道	3. 公民館対象人口	26,259人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	名寄市	4. 建物設置年月日	昭和58年8月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	640台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 556人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 27,731 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 0人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1,460 (大ホール催事等) 合計 29,747人				
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 8人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 1人) 合計 12人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (文化センター大ホール) <input type="checkbox"/> 自由記述 (大ホール(647席)併設)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 名寄カトリック幼稚園、光名幼稚園、名寄市立大学、名寄市北国博物館				

名寄市民文化センター

OPEN 9:00~22:00 H P <http://www.city.nayoro.lg.jp> (市HP)
 TEL 01654-2-2218 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

新型コロナウイルス感染症の影響で緊急事態宣言が発令され、予定されていた社会教育事業の中止や、実施できた事業においても多くが定員の縮小や内容の変更を余儀なくされた。また、三密を避けるための対策を徹底する必要があり、企画者側・参加者側双方に多大な負担が生じた。新型コロナウイルス感染症の終息時期が不透明である中、市民の学ぶ機会や学習の継続性を確保するためにも、オンラインを活用した事業展開が必要となった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

「学びをとめない。」をテーマに、インターネット環境を活用した講演会や講座を配信することにより、公民館に直接集合することができない市民でも制限なく学びの機会に参加できる、学習環境の整備を行った。また、家庭教育学級合同研修会をはじめとした研修会の様子を動画で撮影・配信するなど、オンラインシステムを積極的に活用した、新たな学びの提供に取り組んでいる。

●家庭教育学級合同研修会

幼児を持つ親子を対象としたリトミックのコンサートを、三密対策を徹底した上で集合型の開催にするとともに、オンラインによる動画配信を行い、いわゆるハイブリッド型での開催に取り組んだ。また、期間限定のアーカイブ配信も行うことができた。

●名寄ピヤシリ大学公開講座

高齢者学級事業「名寄ピヤシリ大学」で行う市民向けの公開講座を、会場からのライブ配信で行った。コロナ禍で大学の活動を自粛している高齢者も安心して参加することができて好評であった。

●市民講座、青少年教育事業

趣味や教養に関する講座（みそ作りやステンドグラス作りなど）、本市の良さを理解し地域への愛情を育むことを目的とした講座「なよろまるごと体験！エンレイカレッジ」、青少年教育事業（写生会、料理教室、書初めなど）を開催し、事業の様子を動画撮影、編集し、動画配信サイトにおいて公開している。



家庭教育学級合同研修会



名寄ピヤシリ大学公開講座

3. 取組による成果や効果

家庭教育、市民講座、高齢者学級、青少年教育などの社会教育事業において、ライブ配信やオンライン受講、動画撮影に取り組むことで、オンラインでの参加者は、感染の心配をすることなく、安心して参加することができた。

また、当初はオンライン配信技術に不安があったため、経験豊富な事業者の支援を受けたが、たくさんの経験を積み重ねることで、当館の職員だけで配信ができるまでにノウハウを得ることができた。

このことは、本市における公民館活動や社会教育の充実につながる画期的なことで、公民館を核とした「人づくり・絆づくり・地域づくり」に大きな可能性を膨らませることと考えている。



オンライン配信の様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 参加者や講師を対象とするアンケートによる講座評価の実施
- 年3回開催の名寄市社会教育委員の会において、取組状況を報告
- 年2回開催の名寄市公民館運営審議会兼名寄市民文化センター運営委員会にて、取組状況を協議

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

市民の「学びたい」という意欲を大切に、市民の声による身近な市民講座を開設するとともに、本センターを核として、豊かな文化に触れる機会や市民の学びの成果を発表する場づくりを通じて、コミュニティを醸成し、心豊かな市民の生活を支えていきたい。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

社会教育は、「つどう・まなぶ・むすびあう」を原点に、これまで対面による学びや体験を基本に事業を展開してきたが、対面とオンラインによるハイブリッド（複合的）な学習機会を提供することで、安心して参加することができる。しかし、オンライン学習のスタートラインによりやく立てたばかりで、その活用はまだ限定的であり、今後は、より分かりやすい配信やオンラインで参加される方との交流を行うなど、実践的な学習機会の提供を図っていきたい。また、これまでの学習の様子を動画で配信し、市民が繰り返し学ぶ機会を提供していきたい。

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる公民館

田舎館村中央公民館



白寿大学健康講座「グラウンドゴルフ」



子ども会「リーダー研修会」

公民館の沿革・年表

- 昭和51年7月 中央公民館設置
 昭和57年 白寿大学開設
 平成22年 中央公民館改修工事
 令和元年12月 中央公民館・村民体育館新築工事開始
 令和3年2月 中央公民館・村民体育館完成
 防災の拠点として、備蓄倉庫やフリーWi-Fiを兼ね備えた公民館として生まれ変わる。
 令和3年4月 中央公民館・村民体育館落成式

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 白寿大学「グラウンドゴルフ」の様相
 「白寿大学学級委員会」を開催し、事業の現状と課題や健康講座等の事業について話し合っている。写真は、大鰐町のおじゃら山で開催された「グラウンドゴルフ」の様子で、ゲームを楽しむと同時に、足腰の運動にもなると大好評である。健康講座として、「ユニカール」などを行っている。
- 子ども会「リーダー研修会」の様相
 田舎館小学校から参加者を募り、梵珠少年自然の家を利用し、様々なプログラム体験活動を通して、積極的に活動できるリーダーの育成を目指している。

1. 都道府県名	青森県	3. 公民館対象人口	7482人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	田舎館村	4. 建物設置年月日	昭和51年7月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無制限	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 100人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 12268人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 12,368人			
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 7人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人)		<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 7人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (社会教育委員の会議)					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述 ()	<input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (体育館)	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	光田寺保育園、川部西ヶ丘保育園、畑中保育所、田舎館こども園、田舎館小学校、田舎館中学校、弘前大学、子ども会連絡協議会、大鰐グラウンドゴルフ協会、田舎館村企画観光課、田舎館村中央公民館図書室、田舎館村博物館	

田舎館村中央公民館

OPEN 9:00~21:00 H P <http://www.vill.inakadate.lg.jp/>
 TEL 0172-58-2250 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

○村内でも少子高齢化・人口減少が進む中で、人生100年時代を豊かに生きるため、生涯学習の充実に力を入れている。幼児から高齢者までの学習機会を充実させることができるよう、村民の声に耳を傾け、多様なニーズに応じた対応を心掛けている。

○平成23年に小学校が統合し、村内には小学校と中学校がそれぞれ1校ずつとなった。活力ある地域づくりに向けた人材育成のためには、保・小連携や小・中連携の充実に加え、家庭・学校・地域・行政の更なる連携が必要不可欠である。家庭・学校・地域・行政の架け橋となり、一人一人が主体的に学習し、豊かで住みよい地域社会をつくることのできる公民館活動を推進している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【白寿大学】

「高齢者の生活環境の変化や多様化する学習要求に応え、生きがいのある充実した生活を促進する。」を重点目標に掲げ、60歳以上を対象に、健康増進と、学習機会の充実を図ることを目的として開設している。「教養講座」「健康講座」「体験学習」を実施しており、5月に開催される「白寿大学学級委員会」で内容を決定している。

【成人教養講座特別企画】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で様々なイベントが中止になる中、村民に笑顔を届けることを目的に、自宅でできる催しを新たに企画し、成果をホームページで発信している。

【子ども会活動】

「子どもを中心とした学校外活動を通して、自らを考え、判断し、行動する力を育成する。」を重点目標に掲げ、田舎館小学校の児童を対象に、「リーダー研修会」「スポーツ大会」「雪合戦大会」を行っている。子ども会育成連絡協議会と連携し、主体的に活動できる子どもの育成に取り組んでいる。

【家庭教育講座】

「家庭教育に関するテーマを設定し、子どもの自立を支援していく親の望ましい在り方を学習する機会の提供を行う。」を重点目標に掲げ、村内にある3保育所、1こども園を対象に、親と子の心のふれあいや育児に関する講演や実技等を行っている。



白寿大学体験学習「そば打ち体験」



家庭教育講座

3. 取組による成果や効果

○白寿大学には約90名の登録がある。8月以外、毎月講座を開催しており、各講座には平均して30名ほど参加があり、高齢者の生きがいや生活の充実が図られている。

○子ども会活動では、子ども達がリーダー研修会に参加し、体験活動を通して学んだことを普段の学校生活に生かすなど、自主的な活動が見られるようになった。また、スポーツ大会や雪合戦大会では、子ども会ごとにチームが生まれおり、上学年が下学年の面倒を見ることで、縦の関係が強まっている。

○家庭教育講座では、「楽しく育児ができるコツ」に関する講演や実技等を行うことにより、「学んだことを家庭教育に生かしている」という声が多く聞かれるようになった。



白寿大学体験学習
「正月リースづくり」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

○公民館運営審議会に代わり、社会教育委員の会議において公民館事業の改善を図っている。

○白寿大学では、4月の開講式で選ばれた「学級委員」が、5月の「学級委員会」において、前年度に実施された事業の現状と課題について話し合い、その結果をもとに、白寿大学の各講座の内容を決定している。

○子ども会活動では活動の実施前に、連絡協議会三役会で事業内容を検討し、役員会を開き、詳細を確認している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる公民館となるよう、幼児から高齢者まで、多様なニーズに応じた学習機会の充実を大切にしている。誰でも気兼ねなく来館できる雰囲気づくりに努め、村民の声を生かした催しを開催するなど、「村民ファースト」の公民館活動にすることを心掛けている。



雪合戦大会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

コロナ禍でも村民に笑顔を届けようと、令和3年度は、成人教養講座の一環として新たな事業を企画し、実践してきた。今後は、整備されたネット環境を生かし、白寿大学の「教養講座」や「成人教養講座」を参集型と配信型のハイブリッド型にしたり、YouTube等で事業内容を発信したりするなど、DX（デジタルトランスフォーメーション）時代に対応した新しい企画を積極的に取り入れ、村民自慢の「憩いの場」にしていきたい。



村民自慢の「憩いの場」

住みたい 住み続けたい！「きたまた」にまた来たい！

奥州市北股地区センター



葦名堰の清掃ボランティア



農作業ボランティア

公民館の沿革・年表

- ・昭和42年10月17日 北股小学校新校舎落成
- ・平成18年 3月31日 北股小学校と衣川小学校統合（廃校）
- ・平成19年 5月22日 北股地区振興会設立
廃校を北股地区センターとして活用
- ・平成20年 6月14日 岩手宮城内陸地震（避難所開設）
- ・平成20年 9月 地区内各行政区の自主防災会設立
- ・平成22年 6月 北股地区自主防災会連合会設立
- ・平成23年 3月11日 東日本大震災
- ・平成25年 3月 北股地区高齢者組織「北生会」設立
- ・平成29年 4月 北股地区センターの指定管理者制度開始
岩手県立大学との地域協働研究開始

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 平成 30 年から実施しているボランティアワークキャンプに、地域外から大学生を中心に4カ年で延べ606名のボランティアが参加して活動を展開している。
- 地域外の大学生等が、ボランティア活動を通して、住民と交流しながら地域課題の解決を図り、地域への関心を深めている。
- 堰清掃や農作業の手伝いなど、地域全体や住民個人を対象として、それぞれの課題解決に向けた幅広い活動を行っている。

1. 都道府県名	岩手県	3. 公民館対象人口	468人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	奥州市	4. 建物設置年月日	昭和42年10月17日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	60台以上 (3回線)
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (北股地区振興会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 36人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 191人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 263人 (遠足支援、子ども食堂、会議等振興会関連) 合計 490人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (北股地区振興会総代会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (廃校を地区センターとして活用。隣接する広場に衣川天文台 (屈折式としては日本最大級の望遠鏡) が設置されている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (岩手県立大学、東北学院大学、一関修紅高校、あゆみ園、衣川小学校、衣川中学校、民間企業、奥州市社会福祉協議会)				

奥州市北股地区センター

OPEN 8:30~21:00

H P <http://kitamatacc.floppy.jp/>

TEL 0197-52-6513

SNS <https://www.facebook.com/kitamatacc/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●若年人口の流出による人口減少の影響を受けて、少子高齢化が進行している北股地区では、農作業に加えて、日常的な自宅の掃除、移動、介護などの生活ニーズを、世帯内で充足することが難しくなっている。これまで、これらの日常生活ニーズを充足していた血縁・地縁による相互的なサポートも、高齢化と人口減少の中で、その維持が困難となっている。地域社会のネットワークの縮小は、それまで集落内で営まれてきた共同作業へも影響を及ぼしている状況にある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【学生との協働によるボランティア活動「ボランティアワークキャンプ」】

①地域の住民の生活や生業の課題解決（個人・世帯）

個人宅の庭の草刈りや家屋内の片付け、稲作や花き等の農作業の手伝いを行う。

②地域（集落）の課題解決

農業用水路の一斉共同作業や、共同放牧地及び牛舎の管理、地域の特産品（山ぶどう）の収穫作業等を行う。

③住民とボランティアの交流

初めてのボランティア参加者を対象に、地域巡り（オリエンテーション）を実施。また、地域住民との交流の時間を設定している。

【岩手・宮城内陸地震の教訓を踏まえた取組】

自主防災会連合会が毎年6月に防災訓練を実施。ドローンによる被災状況の確認、デジタル無線による各地区の避難情報の共有など、住民の防災意識の向上に努めている。

【子ども食堂の開催】

奥州市、社会福祉協議会、株式会社モリレイ（矢巾町）が協定を締結して推進している取組。冬のボランティアワークキャンプに合わせて実施し、子どものいる家庭のほぼ全戸の親子が参加した。



地域巡り（オリエンテーション）



防災訓練の様子



子ども食堂の様子

3. 取組による成果や効果

●ボランティアワークキャンプをきっかけとして、岩手県立大学に学生ボランティアサークル「北股フレンズ」が設立された。その活動は専修大学、一関修紅高校など他の学校にも広がっており、多くの学生が参加している。

●ボランティア活動を通じて地域住民と学生の関係性が構築され、「夏祭り」等の地域のイベントや、「太鼓」の伝承など、多様なニーズへの対応に繋がっている。

●地域の企業から学生ボランティアを支援するために、自動車（3台）の無償貸与を受けるなど連携体制が構築された。

●コロナ禍の支援の在り方として、Webを活用した「オンライン型支援」の構想を練っている。



北斗国見太鼓の練習

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●北股地区コミュニティ計画作成にあたり、住民によるアンケート調査を実施している。

●北股地区コミュニティ計画に基づき、各部門ごとの活動計画を検討する会議を毎年1回以上実施している。

●各事業後には事業に関わった学生ボランティアに対し、活動の振り返りアンケート及び「フレンズノート」という冊子への記入等により取組の検証をしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

こころ豊かに自然と調和する 誰にもやさしく・なつかしい・住みたい・住み続けたい『きたまた』

豊かな自然と共に暮らしながら、誰もが住み続けたいと思える地域にしていきたい「4つの柱」に沿った取組を推進していく。

- 人口・子育て・教育
- 安心・安全・環境
- 健康・福祉
- 農業・産業



星空日本一の観望会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

●地域のボランティアセンターとして、県立大学等との連携による活動を軸にしなが、地域内外への情報発信を通じて活動内容や参加者の多様化を目指す。

●農村DXセンターとして情報発信しながら「定年帰農」や地域出身者の里帰り就農など、将来的に北股に戻り農業を継ぐ人の増加を期待し、特色ある活動を継続させていく。



牛追い作業のボランティア

豊かな自然、歴史と文化を育む生涯学習のまち

久慈市山形市民センター



やまがたビジョン策定委員会



遠島山トレッキング

公民館の沿革・年表

- ・昭和26年7月 山形村公民館設置
- ・昭和31年4月 移動公民館開設
- ・平成10年7月 山形村山村文化交流センター開設設置
(山形村公民館・山形村立図書館複合施設)
- ・平成18年3月 久慈市立山形公民館に改名
(市村合併)
- ・平成29年4月 公民館から市民センターに機能変更
久慈市山形市民センター開設

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 旧山形村時代に開設され、地域住民の集いの場となっている。公民館機能のほかに図書館、舞台 (ホール) も併設されており、学びや発表の場としても活用されている。
- 町内は大きく8地区に分かれており、市民センターだけではなく、**各地区に出向き**様々な事業を展開している。
- 令和3年度に**山形町の将来像をみんなで話し合う「やまがたビジョン策定委員会」**が設立されたことで、地域の問題点や目標を住民が見直す機会となっている。(令和4年度策定予定)

1. 都道府県名	岩手県	3. 公民館対象人口	2286人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	久慈市	4. 建物設置年月日	平成10年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無し
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (久慈市)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1241人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3920人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 () 合計 5,161人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民センター運営協議会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (女性の仲間づくりの促進、地元食材を活用した青壮年交流の促進)				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (ホールを備えていることから発表会等による利用もある。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 山形小学校、山形中学校、NPO法人やまがた文化スポーツNPO、山形町内各町内会、山形地区老人クラブ連合会、NPO法人ヤマセデザイン会議				

久慈市山形市民センター

OPEN 9:00~22:00

HP

<https://www.city.kuji.iwate.jp/>

TEL 0194-72-3711

SNS



久慈市HP



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●山形地区は、旧山形村全域を対象にしており、地域の大部分を山林が占める山村である。合併により久慈市山形町となり、8地区に13の自治体がある。合併により山形町となった今でも、村だった時から続く地区ごとのまとまりのほうが強。また、多分に漏れず少子高齢化の問題は深刻であり、合併時の8小学校2中学校から統廃合により現在は2小学校1中学校となっている。将来地元に住みたいと思えるような魅力的な地域となるよう、情報発信や地域活動の実施、地域資源の掘り起こしが必要と考え、様々な活動に取り組んできた。昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため多くの活動が中止となったが、地域コミュニティの維持のため各種活動を再開継続していく。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【おらほーる劇場】

●旧山形村時代より開催していた「おらほーる劇場」を市民劇場として、再開。市民を中心に地域住民が脚本、演者、美術、音響、照明などすべて手作りの演劇を行っている。2007年に第1回が始まり、これまで13回開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2年開催されていないが、令和4年こそは実施したいと準備を進めている。

【三世代交流】

●親、子、孫の交流を活発にすることで地域に愛着が生まれることを期待し、世代間の交流が進むような取り組みを進めている。

【町民文化祭】

●住民活動の発表の場として開催しており、作品展示や地元産品等の販売、体験コーナー等があり、また、山形中学校との合同開催にすることで、地域全体の絆をつなげることに寄与している。

【氷筍観察会・ヒメボタル観察会】

●小国地区にある内間木洞は市の重要文化財にも指定されている鍾乳洞で、冬になると入口から入り込む冷気により、まるでつららが地面から生えているかのような氷筍が見られる。また、全国有数の白樺林である平庭高原にはヒメボタルが生息し、幻想的な光景を見ることができる。山形市民センターがヒメボタル観察会を実施し、山形地区の魅力を参加者にアピールすることが、地元住民にとっては魅力の再発見につながっている。



おらほーる劇場



三世代交流ゲートボール

3. 取組による成果や効果

【これまでの取り組み全体による成果・効果】

- 移動講座**：地区集会所で軽スポーツやクラフト教室を開催することで、市民センターまでの交通手段がない人も参加することができ、多くの人に市民センター活動に参加いただくことができた。
- 遠島山トレッキング**：令和3年度から遠島山山開きが実施されることになり、センターでも参加者を募り当日にトレッキングを行った。登山愛好家などが参加し、山形の豊かな自然をアピールできた。
- 世代間交流**について、各地区で開催することで地域の結束が強まっているものと考えている。このつながりが地区内から町内全体へ広がることを期待している。
- 山形町の魅力の再発見と発信について、多くの事業にリピーターが生まれていることから、魅力ある地域であることが少しずつ広まってきているものと考えている。



町民文化祭体験コーナー

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 市民センター運営協議会において、各市民センターの戦略・運営方針・事業計画、実施状況等について協議し、地域の課題が運営に反映されているかどうか評価・検証し、必要に応じて改善に取り組むこととしている。（令和3年度は3回開催）
- 各事業の参加者の感想や寄せられた意見をもとに打ち合わせを行い、生の声を次の事業に生かすよう取り組んでいる。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 山形地区の豊かな自然を魅力あるものとして、地域住民をはじめ多くの人に伝えていくことを目指し、各種教室や活動を行っている。
- 少子高齢化が深刻な地域であり、**高齢者の健康増進・生きがい創出とともに、子どもたちが地域に愛着をもてるような活動を進めていきたい。**



内間木洞の氷筍

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 地域の代表者やPTA会長らをメンバーとする「(仮称)やまがたビジョン」策定委員会を令和3年度に設立し、**山形町の将来像などが話し合われている。**市民センターとしても、目標を共有し、山形町の将来に貢献していきたいと考えている。
- 日本有数の白樺林を備える平庭高原の環境整備に協力し、魅力発信の一助となる。



白樺林整備

人と人をつなぐ学び舎～心の復興をめざして～

石巻市石巻中央公民館



いきいき花のプロジェクト



子育てサロンいしっこクラブ

公民館の沿革・年表

- 昭和22年6月 石巻公民館開館、設置
- 昭和42年11月 優良公民館表彰受賞
- 昭和45年11月 石巻公民館新築移転
- 平成17年4月 1市6町の市町合併により石巻市となる。
- 平成23年3月 東日本大震災発生
- 平成23年3月～10月 当館が避難所となる。(213日間)
- 平成23年9月 家庭教育支援チーム活動開始
- 平成25年6月 いきいき花のプロジェクト事業開始
- 令和2年3～5月 コロナ禍により休館 86日間

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- いきいき花のプロジェクト
平成25年度から東京都道路保全整備公社等より花の種の提供を受け、自治会や商店会、老人クラブと連携し、震災後の新たなコミュニティの構築と再生する地域づくりに寄与している事業です。
- 子育てサロン「いしっこクラブ」
平成23年9月に立ち上げた家庭教育支援チーム「スマイルエンジェル」との合同企画事業であり、親子の居場所づくりと子育てに関して気軽に育児相談ができる場として、参加する子育て中の親に好評を博しています。

1. 都道府県名	宮城県	3. 公民館対象人口	52529人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	石巻市	4. 建物設置年月日	昭和45年11月2日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 3636人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 14800人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 () 合計 18,436人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 6人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (中心市街地内にあり、対象区域外からの利用も多い。市指定避難所でもある。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (対象区域内各小中学校、石巻専修大学、NPO法人ひたかみ水の里、社会教育関係団体、家庭教育支援チーム「スマイル・エンジェル」、石巻市子ども会育成会石巻支部、近隣の町内会・商店会・老人クラブ、公益財団法人東京都道路整備保全公社、神奈川県建設業協会)				

石巻市石巻中央公民館

OPEN 9:00～21:30 H P <https://www.city.ishinomaki.lg.jp/index.html>
 TEL 0225-22-2970 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

東日本大震災から11年が経過し、最大の被災地である本市は、ハード面の復興に関してほぼ完結されましたが、心の復興に関しては、コミュニティエリアの再編や構築等により、地域連帯意識の低下や孤立化などの諸問題が生じ地域課題となっております。そこで、市民の学習活動拠点である公民館において、地域の人財・資源を活かし、地域住民や団体との協働による地域づくり活動や学習機会の創造と提供に努めていき、より一層地域住民に寄り添った公民館活動の推進を目指しております。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【いきいき花のプロジェクト（要綱2（4）①）】

種から大切に育てた花苗を街路の花壇等に植栽し、住民相互の交流を図っています。また、東京都庁前的大型花壇に「被災地の花」として植栽し、「花」を通じた地域間交流を図りました。

平成29年度から事業の広がりを期待し、一般市民を対象に「ガーデニング講座」開催しており、令和3年度には、「2020東京オリンピック」野球・ソフトボール会場の福島県あづま球場に、「被災地の花」として植栽し、世界に復興の状況を伝えるきっかけとなりました。

【子育てサロン「いっこクラブ」（家庭教育支援）】

震災により子育て環境にも大きな影響を与え、親子の居場所作りや心のケアが急務となったことを背景に、平成23年9月に「家庭教育支援チーム スマイルエンジェル」を立ち上げ、活動の一環として子育てサロン「いっこクラブ」を開催しています。

- ・月2回(第1・第3金曜日)、年間20回開催。
- ・参加数 令和3年度 年間親子87組（コロナ禍前は、親子300組が参加）
- ・親子で手遊びや読み聞かせ、リトミック、おもちゃ作り、水遊びなど
- ・参加する親はチーム員を身近な存在として感じ、気軽に育児相談できる雰囲気づくりを大切にしています。毎回、親子の笑顔を楽しみに和やかに実施しています。



ガーデニング講座 種まき



家庭教育支援チーム
「スマイル・エンジェル」

3. 取組による成果や効果

【いきいき花のプロジェクト】

新しく完成した復興公営住宅に居住する方の参加をどう促すかを考えながら事業を進め、新たなコミュニティの構築と再生する地域づくりの一助となるような事業として定着しつつあります。

【子育てサロン「いっこクラブ」】

親子が楽しむだけでなく、チーム員との何気ない会話の中に子育てに関する相談ができることが参加者の好評を博しています。また、参加者の中には、育児を終えた後に、チーム員として活動している方も多く、人とのつながりのある事業となっています。



「いっこクラブ」と石巻専修大
学生社会教育実習

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

石巻市では学識経験者等12名で構成する社会教育委員の会議を年間4回開催し、事業計画、重点事業等について審議されており、委員からの意見等を踏まえ、事業改善に努めています。

また、当館では、石巻専修大学の依頼により学生の社会教育実習（大学単位認定あり）を受け入れており、実習する学生の方々に公民館事業についての意見や提案を出してもらい、今後の事業運営や事業構築の参考としています。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館は、日常生活の過程でそれぞれの課題や希望を持った市民が学習や活動を通して仲間と出会い、解決や実現のための道筋を発見できる場として位置づけ、人と人、地域、社会をつなぐ学習や活動は公民館運営の要であると考えています。また、施設管理運営に関して、利用しやすい施設や利用者の笑顔があふれる施設は、建物が古いとか新しいとかではなく、管理運営している職員の対応が大切なことと心掛けています。



高齢者教室石巻つくも大学

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

本市は、海、山、川と自然に恵まれた地域であるため、地域の人財・資源を生かし、各種団体等との連携事業や公民館相互の連携事業の構築を図り、心の復興の一助となる公民館活動を推進していくものであります。また、住民ニーズを的確に捉え、学びを通して人と人とのつながりを大切にした事業を今後も展開していきたいと考えます。



利用協議講座 かるた教室

地域をつなぎ、人づくりを推進する公民館

大仙市立南外公民館



南外中学校の生徒と地域住民等による南外そばの収穫



南外小学校でのそば打ち体験会

公民館の沿革・年表

- 昭和30年 南外村公民館開設
- 平成4年 南外村公民館新築
- 平成16年 公民館内に南外村図書館開設
- 平成17年 市町村合併に伴い「大仙市立南外公民館」に名称変更
「南外公民館祭」開始
- 平成21年 「ながい地域祭」開始
- 令和3年 南外公民館に「南外地域学校協働本部」を設置

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

南外公民館の主催事業「ながいの味・食育体験交流事業」

- ふるさとに学ぶ体験（南外そばの栽培、収穫体験）
本地域では、豊かな自然や豊富な湧き水を活用した「そばの里」づくりを目指し、小・中学生が地域住民と力を合わせ、南外そばの栽培、収穫体験を行っている。
- 南外そばを使用したそば打ち体験会
地域住民や公民館職員が指導者となり、小・中学生が収穫したそば粉を使い、そば打ち体験を行っている。小・中学生にとっては、食への意識・感謝を育むとともに、ふるさとのよさの発見につながる機会となっている。

1. 都道府県名	秋田県	3. 公民館対象人口	3,107人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	大仙市	4. 建物設置年月日	昭和30年3月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 ()	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 307人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 240人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館・サークル活動 651人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	1,198人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 6人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算	<input type="checkbox"/> 委託金	<input type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他 ()
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> その他 ()		
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	つきの木こども園、大仙市立南外小学校、大仙市立南外中学校、大仙市役所南外支所、J A、農産物直売グループ、商工会、婦人会、農業経営者、大曲図書館

大仙市立南外公民館

OPEN 9:00~21:00 H P
TEL 0187-74-2130 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

大仙市南外地域は、少子高齢化と人口減少が著しく、基幹産業である農業の担い手不足が深刻となっている。農業の担い手の発掘・育成は、本地域の維持・活性化のための最重要課題となっている。本地域の農業は、従来は米が主力であったが、近年では米以外の作物も育てる複合経営や、6次産業化の動きも進んでいる。そうした中、本地域の豊かな自然や豊富な湧き水を活用した「そばの里」を目指し、そばを地域の特産品にしようとする農家も増えてきている。

一方、市教育委員会は、平成29年度から「地域活性化に寄与できる子どもの育成」を目指し、地域の教育力を再編・強化し、各中学校区単位で公民館等と連携しながら地域に根ざしたキャリア教育等の取組を行う「大仙教育メソッド」を推進している。

そこで、本公民館では、子どもたちが本地域の基幹産業である農業の重要性を理解することができるよう、「なんがいの味・食育体験交流事業」を実施している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

子どもたちが南外地域で生産されている農産物等について学ぶ「なんがいの味・食育体験交流事業」を実施するに当たり、本公民館では、地域のJ A、農産物直売グループ、商工会、婦人会、農業経営者、学校関係者、市職員等からなる実行委員会を組織し、地域の教育力を生かしながら事業を展開している。

○その1：南外そばを使用したそば打ち体験会

南外小学校の5・6年生と南外中学校の1年生を対象に、特産化が進んでいる南外地域のそば粉を活用し、そば打ち体験会を行っている。子どもたちは、地元の生産農家等から南外そばの特色について説明を受けた後、そば打ちの手ほどきを受け、試食を行った。事後のアンケートには、「歯ごたえがあっておいしかった。」「地域の自然環境が、そばの栽培に適していることが分かった。」「地域の特産にしたいという農家の皆さんの熱い気持ちが伝わった。」「私もそばを育ててみたい。』などの記述が見られた。

○その2：おいしい南外米の育成体験

南外地域で育てている「あきたこまち」は県内一おいしいと定評があり、地域の自慢の一つでもある。そこで南外小学校の5年生を対象に「あきたこまち」の育成体験を実施し、そのおいしさの秘密を生産農家や関係者から学ぶ取組を行っている。これは、同校の社会科の学習やふるさと教育の一環として行っている。事後のアンケートには、「いつも食べているので当たり前だと思っていたが、改めてすごいと思った。」「おいしさの秘密は、水の豊かさだと思った。」などの記述が見られた。

○その3：農産加工品等の物産販売体験

南外中学校の生徒を対象に、南外地域祭で地域の農産物加工品等の販売体験を行っている。これは、同校のキャリア教育の一環として行っている。



学校でのそば打ち体験会



南外米の育成体験

3. 取組による成果や効果

本公民館が、「地域の活性化に寄与できる子どもの育成」の実現を目指して行っている「なんがいの味・食育交流事業」は、子どもたちの地域の魅力に対する愛着や帰属意識を醸成するとともに、子どもたちが地域課題について考え、地域の将来像について当事者意識をもって考えようとする意欲の喚起につながっているものと考えられる。

本事業は、地域理解や地域への愛着心を醸成したいという学校側の願いと、基幹産業である農業の担い手育成につなげたいという地域側の願いをマッチさせた取組で、双方がWin-Winの関係になることに大きく寄与している。

一方、地域の子どもたちと関わる本事業は、地域住民にとっても新たな自己発見や生き甲斐づくりの場になっている。地域住民は、子どもたちとの関わりを通して自己有用感や責任感を感じ、他地域へ出向いて学習するなど意識の向上が見られた。

実行委員からは、「子どもたちに栽培から収穫、加工、販売までの、いわゆる6次産業化の一連の流れを経験させ、将来の担い手育成につなげたい。」との声も聞かれるようになった。本事業をきっかけに、本地域が「そばの里」として認知され、6次産業化の流れが定着すれば、地域住民の新たな雇用を生み出す効果も秘めているのではなかと考えている。



地域住民も新たな自己発見

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

年2回、公民館運営審議会を開催し、公民館の事業や課題について報告し、今後の活動に生かしている。また、事業を実施した際には、参加者に対してアンケート調査を実施し、成果と課題について本公民館内で協議するとともに、市教育委員会が行っている事務事業評価に報告し、外部評価委員による評価を行っている。そのことにより、PDCAサイクルを機能させ、次年度の事業実施に生かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

日頃、地域の「つながりづくり」や「賑わい創出」の拠点となるよう、地域住民が一番集まりやすく、楽しさをベースとした学びが行われるスペースづくりを心がけている。また、本市においては、「地域学校協働本部」を各地域公民館に配置している。そのため、地域と学校の双方に有効な「地域学校協働活動」を実施するための連絡・調整役や地域教育力再編・強化の役割を担うよう努めている。



地域の「つながりづくり」の拠点

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

高齢者はもちろんのこと、子どもを含めた若い世代の参画を一層促し、地域の維持・活性化を推進する拠点センター的な役割を果たしていきたい。また、「地域学校協働本部」としての機能を一層充実させ、本市の特色である地域学校協働活動を核にした社会教育と学校教育の一層の連携・協働を推進していきたい。その際、地域課題の解決に熟意をもって取り組む人材を巻き込んでいくことには、特に配慮したい。



地域で輝く子どもたち

世代を超えて みんながつながる『絆』ステーション

北秋田市民ふれあいプラザ



定期講座グッドライフ講座
「障がい者スポーツに挑戦」



冬の笑楽校
「楽しく防災を学ぼう！」

公民館の沿革・年表

- 昭和48年 鷹巣町立鷹巣中央公民館が開設される。
- 平成17年 鷹巣町、合川町、森吉町、阿仁町が合併して北秋田市となる。
- 平成20年 「定期講座グッドライフ講座」を開始する。
- 平成24年 「冬の笑楽校」を開始する。
- 平成28年 「北秋田市民ふれあいプラザ」として新設される。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 定期講座グッドライフ講座「ハンズToハンズプログラム」
「障がいのある無しにかかわらず共に学びあおう！」をテーマに講座を開催。写真は、「障がい者スポーツに挑戦」の様子。ポッチャ、卓球バレー、スカットボールを行い、交流を深めた。
- 冬の笑楽校
地域の大人を講師に、北秋田市と上小阿仁村の小学生が集い、学校では体験できない学習や活動を行っている。写真は、「楽しく防災を学ぼう！～みんなでテントを張ろう～」の様子。子どもたちは協力しながらあっという間にテントを完成させていた。

1. 都道府県名	秋田県	3. 公民館対象人口	29,847人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	北秋田市	4. 建物設置年月日	平成28年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	9台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 ()	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 16,491人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 6,206人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 25,443人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	48,140人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 11人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 (職員のうち社会教育士の数 1人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 13人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算	<input type="checkbox"/> 委託金	<input type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他 ()
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> その他 ()		
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (市の中心市街地に位置し、幅広い世代が利用できるスペースと機能が充実した憩い・集い・学びの場)	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	(市内9小学校、市内4中学校、県立秋田北鷹高校、県立比内支援学校たかのす校、秋田大学北秋田分校、大館少年自然の家、北秋田市障害者生活支援センターささえ、北秋田市老人クラブ連合会、たかのす銀座通り商店街、上小阿仁村教育委員会、北秋田警察署、北秋田市消防署、東京都国立市)

北秋田市民ふれあいプラザ

OPEN 8:30~22:00
TEL 0186-62-1130

H P https://www.city.kitaakita.akita.jp/genre/kyouiku_bunka_sports/syougaiakusyu/fureai
SNS (市公式twitter) @kitaakita_city



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

本センターは、市内中心部に建設された社会教育類似施設であり、**地域の大きな課題の一つである中心市街地の活性化を担っている**。市内に11の公民館があるが、それらの公民館において生涯学習・社会教育の活動が充実するよう、**各公民館の拠点施設**として、連携へのアプローチや情報提供等を行っている。また、地域課題への対応、学びの場を核とした地域コミュニティ形成を推進するとともに、学校・家庭・地域が連携・協働するための活動に対応した取組を実施することを通して、**あらゆる年代に学ぶ機会を提供**している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【定期講座グッドライフ講座（障害者の学びの支援・高齢者の学びの支援）】

中高年者に元気と安心を与えること、地域課題の解決を図ることを目的に年5・6回定期的に開催している。2年前からは、**「共生社会」を目指し障害者の生涯学習を推進**するため、障害の有無に関わらず講座に参加できる「ハンズToハンズプログラム」を開催している。障害者のほか、知的障害者相談員や民生児童委員、地域の高齢者などが共に活動してお互いに理解を深め、学び合う関係が生まれている。講座の内容は、「防災」や「街歩き」などの地域の課題に目を向けたものや、「そば打ち体験」「ニュースポーツ体験」など、広く交流し、みんなが楽しみながら学べるようなものを実施している。市内老人クラブ員や**他講座で養成した人材を講師**としてお願いするなど、これまでの**学習の成果を発揮する場**にもなっている。

【「冬の笑楽校」（子どもの体験活動・地域資源を活用したまちづくり）】

地域の大人を先生に、小学生が集い**学校では体験できない学習や活動**を通して地域に目を向け、互いの仲間意識や向上心を高める目的で実施している。小学校の冬休み中に開催し、近隣の上小阿仁村の小学生と共に活動を楽しんだ。地域企業、高校生ボランティア、地域住民、生涯学習奨励員等によるサポートにより、**幅広い年代がつながりをもつ場**となっている。



他講座で養成した人材の活用
「そば打ち体験」



高校生ボランティアの活躍
「冬の笑楽校」

3. 取組による成果や効果

【取組による成果・効果（定期講座グッドライフ講座・冬の笑楽校）】

- 多くの市民が集うふれあい施設の主催事業として、**住民が学びの楽しさや新たな仲間づくりを体験**することができた。
- 年代、障害の有無、地域等に関わらず参加できる要素を盛り込んだ事業を繰り広げたことで、**世代間交流や共生社会のまちづくりを推進**することができた。
- 地元高校との協働により高校生が地域で活動する機会が増え、**高校生が活躍する場を創出**するとともに、**地域住民が高校生を応援する機会**ができた。
- 地域の大人が先生となり学校では体験できない学習や活動を通して、小学生がふるさとのよさを学んだり、**身近にある仕事に関心をもったり**することができた。



地元の警察官を講師として活用
「冬の笑楽校」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 社会教育委員の会議：年2回開催。社会教育中期計画に沿った各種事業の報告や評価を行い、次年度以降の活動へ生かしている。
- 公民館運営審議会：年2回開催。公民館の事業や課題について報告し、今後の活動に生かしている。
- 利用者アンケートの実施：講座や事業終了時において実施している。その結果を次回の活動の改善に生かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

施設のコンセプトとして「憩い・交流・にぎわい」を掲げており、住民の憩いの場として集い合いながらお互いを高め、**住民一人一人の充実した生活を創造**することを目標としている。また、市における生涯学習・社会教育の中心施設として、自主サークルや講座の紹介、講師の斡旋等の相談業務にも対応するなど、**住民のニーズや要望に応える**ことを大切にしている。



高齢者の交流の場

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- SNSを利用した情報の発信を活用しながら、**幅広い世代への学びの機会の周知**を図る。
- 世代間交流の場をつくり、知識や経験を**次世代へ引き継いでいく仕組みづくり**に努める。
- 高齢者、障害者、学生、子育て世代など誰もが学びつながりあえる場として、**「北秋田市民ふれあいプラザに行けば何かが見つかる！」**と市民が感じることができる場をつくりあげていきたい。



子育て世代支援室
「ねまー広場」

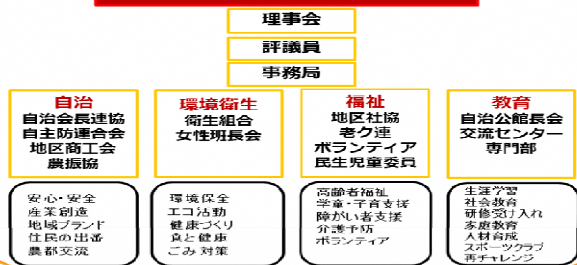
「持っていない」を「持っている」出し惜しみなんてしないから。

川西町吉島地区交流センター

組織概要

地区公民館を運営する組織（社会教育振興会）を母体として、自治会長連絡協議会、防犯協会、衛生組織分会、地区社協、自主防災組織、ボランティア会を統合した。（会計一元化、事業継承、会議の一元化）地区交流センターを指定管理で受託し、地域づくりの「小さな拠点」として総合的な地域づくりを展開

NPO法人きらりよじまネットワーク



公民館の沿革・年表

- 2002年、町の行財政改革に伴い公民館が公設民営化。
- 2004年、優良公民館として文部科学大臣賞受賞。
- 2006年、地区公民館の指定管理者制度導入。
- 2007年、NPO法人設立。公民館の管理運営にあたる。
- 2009年、地区公民館がコミセン化され、社会教育施設から地域課題の解決拠点として再スタート。
- 2010年、地域づくり総務大臣表彰
- 2012年、地区公民館の耐震工事が完了。
- 2017年、地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰受賞
- 2019年、第9回地域再生大賞準大賞受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

●合意形成のシステム
「決めない会議」と「決める会議」の2層の仕組みを構築。「決めない会議」では住民WSにおいて地域の意見や要望、課題を集約する。集約された意見や課題は事務局および各部門で検討され、事業化の可否と事業化の企画・立案がなされる。「決める会議」ではその事業化の精査や予算の配分・執行を最終的に決定。決定事項は各部会で事業化され、一年経過後に事前の評価基準によって活動を評価（PDCAサイクル）。評価結果は全住民に開示。



1. 都道府県名	山形県	3. 公民館対象人口	2230人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	川西町	4. 建物設置年月日	昭和54年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	500台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (NPO法人きらりよじまネットワーク) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 845人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 6997人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 () 合計 7,842人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 11人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 48人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 65人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 (51,250千円)				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input type="checkbox"/> その他 (公民館のセンター化により分野横断型の) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (地域食堂や各種サロンの運営など、地域住民が気軽に立ち寄れる工夫をしている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (川西町立美郷幼稚園、川西町立吉島小学校、川西町立川西中学校、東北大学、慶応義塾大学、地元企業、置賜管内のNPO法人、吉島地区内の各種団体、山形県、川西町など)				

川西町吉島地区交流センター

OPEN 9:00~22:00 H P <https://www.e-yoshijima.org/>
 TEL 0238-44-2840 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

町の行財政改革に伴う公民館の公設民営化を契機とし、地域を再生させるために当時の地区公民館事務局のメンバーを主体に新たな組織の立ち上げに着手。2004年、地域運営組織として地域内の地縁で組織される各種団体を統合し新たな組織の構築を住民に提案した。住民説明と住民ワークショップを丁寧に繰り返し、少しずつ合意形成を図り、設立までに3年の準備期間を設け、2007年に全世帯加入のNPO法人を設立。住民ワークショップで地域ニーズを把握し、わがごと化、まるごと化を図り、5か年の地区計画を徹底したPDCAで実践。地域の若者層をNPOの事務局として組織に体系化するとともに、課題解決の技術やツール活用等の学びの場を設定し、将来の担い手育成を計画的に実践している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●合意形成のシステム

「決めない会議」と「決める会議」の2層の仕組みを構築。「決めない会議」では住民WSにおいて地域の意見や要望、課題を集約する。集約された意見や課題は事務局および各部門で検討され、事業化の可否と事業化の企画・立案がなされる。「決める会議」ではその事業化の精査や予算の配分・執行を最終的に決定。決定事項は各部会で事業化され、一年経過後に事前の評価基準によって活動を評価（PDCAサイクル）。評価結果は全住民に開示。

●地域福祉

地区内の幼稚園、小・中学校と連携体制を構築し、学校支援活動や地域福祉の学習提供など学校教育に積極的に関与。幼少期からの地域活動を促進し、青少年の健全育成を図る。生活支援アプリやAIスピーカーを活用した高齢者の生活支援にも取り組む。

食を通じて人がつながる子ども食堂を兼ねた地域食堂「まんま屋」を運営。夜は居酒屋「きりり」を営業している。

●人づくりスキーム

人材発掘は各自治公民館（19ヶ所）の館長が行い、地区の有望な若者を教育部会の専門部に所属させ、OJT・OFFJTを実施。

教育部会（1～2年）、事務局研修生（2年）、事務局、マネジャーという順に段階的にスキルアップ。事務局スタッフとしてはコーチングとファシリテーション、マネジャーとしてはマネジメントとマーケティングの技術（プロから学ぶ環境をつくり専門的研修を実施）を習得。

若者は事務局の運営や住民WS、住民ニーズの事業化プロセスなどで学びと実践を繰り返し、地域コーディネーター（指導者）として活躍が可能。地域コーディネーターには6つの力が必要（コミュニケーション、ファシリテーション、企画力、PR力、ネットワーク、組織経営力）。

人材育成は若者に限らず、地域外の住民や女性など様々な人材を対象とし多面的に行い、住民が相互補完できる関係を目指す。



写真・図のタイトル



写真・図のタイトル

3. 取組による成果や効果

公民館を地域づくりの小さな拠点として、次代を担う地域の若年層がその事務局機能を担っており、人材の育成が図られている。また、世代をつなぐ活動の取り組みによって、縦の関係性が生まれ広がりを見せている。

住民ワークショップを取り入れることにより、住民の思いを取り入れることができている。

事業においても、子どもたちから高齢者まで、日常的にふれあう場がつけられ、世代間の交流や共同ができている。

大学や企業、他県の協議体等々とのつながりができており、関係人口は延べ2,000人を超えている。



写真・図のタイトル

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

地区計画に網羅されてる事業にすべてチェックシートがあり、年2回の評価診断活動でPDCAを標準化。

住民ワークショップを年4回、子どもの体験活動でのワークショップを2回、高齢者向けワークショップを2回開催し、ニーズとアイデアの集約を行い、5か年の地区計画に反映している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

内発性：地域づくりの主体は住民であり住民の思いが企画を生み知恵・経験を集約、展開・発展させる

多様性：地域の様々な個性を受け入れ、地域に不足する資源は他分野、他地域等と連携する

独自性：地域特性を捉え、地域ならではの資源を活用した横並びしない魅力ある地域づくりを意識する

改革性：課題解決に必要な「経営技術」、「課題解決ツール」を、住民自身が学び、実践を通して地域が成長する環境を整える



写真・図のタイトル

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人口減少、超高齢化が加速する地方のコミュニティーを持続可能なものにしていくためには新しい人のつながりづくりが重要である。都市部との豊かな人間関係を構築し、都市部の人にとって吉島地区が「第二のふるさと」となるように「関係人口」の拡充を図る事業を展開していく。



写真・図のタイトル

つどい、まなび、むすび、いかす 中央学習センター

福島市中央学習センター



0歳児コース カンガルー教室



ふくしまマスターズ大学

公民館の沿革・年表

昭和23年11月 中央公民館設置

昭和43年 3月 増築

平成17年 7月 中央学習センターに名称変更

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

○中央家庭教育学級「0歳児コースカンガルー教室」

0歳児とその保護者を対象に、相互に交流しながら育児について学習し、保護者の孤立化の防止や家庭での育児力の強化をはかり、育児を楽しみながらよりよい親子関係、家族関係を構築することをねらいに実施している。

○ふくしまマスターズ大学

時代のニーズに即し、あらゆる世代の市民に対し、夢と希望を与えるため、著名な講師による講演会を実施することにより、自己の能力や知識の向上を目指すとともに、地域社会に対し積極的に還元を図る契機とすることで活力ある生活や生涯学習への意識の高揚を図る。

1. 都道府県名	福島県	3. 公民館対象人口	25300人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	福島市	4. 建物設置年月日	昭和34年2月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 4025人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 26249人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 605人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 62人 (運営審議会ほか)				合計 30,941人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 8人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 職員のうち社会教育士の数 1人) 合計 10人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

福島市中央学習センター

OPEN 9:00~21:00

H P <https://www.city.fukushima.fukushima.jp/gakushucenter/chuocenter/index.htm>

TEL 024-534-6631

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 障がい者が、生涯にわたり自らの可能性を追求でき、地域の一員として豊かな人生を送ることができるようにすることは共生社会の実現に向けて重要なことであるが、特別支援学校や特別支援学級卒業後の学び直しが大きな課題となっていた。
- 高齢化が進行する中、現役をリタイアしたシニア世代の生きがいづくりや地域とのつながりづくりを通じて、健康で充実したセカンドライフの一助にもらうとともに、地域社会の担い手として社会参画をしてもらうための必要な学習機会の確保が課題とされていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

①しゃくなげ青年講座

特別支援学校や特別支援学級を卒業した卒業した知的障がい者を対象に、余暇の有効活用の場と、豊かな生活体験や交流するための機会を提供することで、社会参加や自立を支援することを目的に昭和44年から講座を実施している。

現在の参加者は約40名。運営にあたっては本人や保護者（家族）の意見を取り入れながら、講座については、生活教養、レクリエーション、造形活動やまちの施設利用等の活動を実施し、ふくしま支援学校、太陽学園、福祉レクリエーションネットワークinふくしま等と協力しながら行っている。



しゃくなげ青年講座・選挙の学習

②ふくしまマスターズ大学

あらゆる世代の市民を対象に、生涯学習の意識高揚を図り、さらには生きがいづくりと学びのきっかけづくりとするべく著名な講師による講演会を実施。

その中で、聴講者が自主的に同期生会等の組織を立ち上げ、講演会の運営協力、教養・体験学習、地域づくりなど会員同士で交流を図りつつ自主的に活動しており、その結果、地域社会への積極的な還元が図られている。



マスターズ大学講演会

3. 取組による成果や効果

①しゃくなげ青年講座

- 障がい者の生きがいづくりや地域とのつながりを創出。
- しゃくなげ青年講座をきっかけに、地域住民の共生社会実現の重要性が認識されてきている。

②ふくしまマスターズ大学

- シニア世代の生きがいづくりや住民同士のつながりを創出。
- 同期生会の活動を通じて地域の課題や魅力を発見し、地域課題の解決に関する学びを通じて、参加者の地域づくりへの関心が高まった。



マスターズSDGS学習会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 町会関係者、学識経験者、公募委員等12名で構成する運営審議会を年6回開催。活動ごとの振り返りや課題について議論し、多様な視点からの意見等をいただき事業を検証、改善を実施している。
- しゃくなげ青年講座については、保護者説明会やスタッフミーティングを定期的に行い、講座の問題点を検証、改善を実施している。
- ふくしまマスターズ大学については、連絡会、実行委員会を立ち上げ、事業の企画段階から議論することにより、市民目線に立った講演会の運営、自主事業の実施のため意見等を反映。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 市民が、「つどい」「まなび」「むすび」「いかす」のための本市学習センターの中核を担う館として、全市民的視野に立ち、各学習センターや町会、学校、PTAなど関係機関・団体との連携を図りながら、ふれあいと生きがいづくりに満ちた魅力ある生涯学習環境の創出を目指し、効果的で特色あるライフステージに応じた社会教育事業を推進する。



中央地区文化祭

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 社会情勢の変化や新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人とのつながりが希薄化される中で、YouTubeを使った動画講座やInstagram等での活動紹介を通じて、「学び」を止めない学習機会の提供に努めていく。
- 地元の大学生や高校生と協力しながら、若年層の課題解決に向けた講座を企画立案、実施していくことにより、これまで学習センターをあまり利用して来なかった年代層の利用増加を図り、生涯学習、さらには地域社会の発展に努めていく。



高校生対象・福島PR部

学びを生涯の宝とするために、今できることを！

相馬市中央公民館



子育てサークル活動への協力（イベントの演出等）



親子ハンコ作り教室の様子

公民館の沿革・年表

- 昭和29年度 開館
- 昭和42年3月 改築（市民会館と併設）
- 昭和57年3月 共同福祉施設完成
- 平成15年4月 相馬市に移管
- 平成16年 旧共同福祉施設・旧相馬市図書館施設へ移転
- 平成18年度 福島県教育委員会表彰公民館受賞
- 平成23年3月11日 東日本大震災により休館、事業休止
- 平成27年2月15日 公民館改築、公民館事業再開

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

相馬市中央公民館は、市内の地区公民館8館を管轄する公民館として講座や教室を展開している。

東日本大震災以降、公民館教室に通う住民の広域化が進むなかで、住民ニーズの多様化にも対応しながら、公民館事業に取り組む。令和元年末からは、新型コロナウイルスによる活動自粛に伴い休館となることがあったが、感染対策を講じながら取り組むことで、今だからこそ出来る学びを展開してきた。また、少人数でも開催が可能な教室・講座、新しい講師の発掘に努め、守ることよりも攻めの公民館事業に取り組んできた。

1. 都道府県名	福島県	3. 公民館対象人口	10101人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	相馬市	4. 建物設置年月日	平成27年2月15日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 6778人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1081人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 89人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 53人（ ）				合計 8,001人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 7人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （ 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 2人 ） 合計 7人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 千客万来館（観光交流施設） ） <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 相馬市観光協会、こはるびより（子育てサークル）				

相馬市中央公民館

OPEN 8:30~17:15

HP <https://www.city.soma.fukushima.jp/shinososhiki/chuokominkan/1/1422.html>

TEL 0244-37-2198

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

○新型コロナウイルス感染拡大は、公民館における教室や講座に影響を及ぼしている。コロナ禍でも、地域住民のニーズとして、「人のつながり」や「学びの場」を求める意見が多く寄せられた。生涯の学びの拠点である公民館として、「今できることを！」という思いで事業を進めてきた。特に、学校生活や家庭生活での制約を受けている子どもたちに対して、様々な体験活動を企画・運営することに努めてきた。

○新事業「先人の生きる知恵を学ぶ講座」をきっかけに、地域の伝統文化等を学び、継承する活動につなげていく。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

①学校との連携による「わくわく出前授業」

新型コロナウイルス感染拡大により学校行事の規模縮小等の学校生活を送る子どもたちに、友達や家族で協力し合う機会を創出しようと出前授業を行った。具体的には、学級活動での「バームクーヘン作り」による友達との仲間意識を高める活動を行った。また、4年算数では、「折り紙で作る三角定規」という課題で、公民館職員が外部講師を務めた。

②多様なニーズに応える「特別企画講座」

・親子による体験活動：全国的に公民館利用が、中高年に偏る傾向にある。当館においてこの課題解決のために、幅広い年代に公民館事業への関心を高めようと、親子で参加出来る教室や講座を開催した。具体的には、「ハンコ作り講座」や「陶芸教室」、「ピザ教室」、「星空教室」を通して、親子のコミュニケーションを深め、家庭でも出来る内容とした。

・先人の生きる知恵を学ぶ講座：相馬市には今も市民の心の支えとして「報徳仕法」がある。コロナ禍という困難を乗り越えるために、先人の教えを学ぶ「相馬報徳講座」を行った。また、食文化に関する「柿の渋抜き講座」を行った。SDGsの視点から昔の人々の渋抜きの方法を体験した。

・学び合いと交流ができる教室：参加者同士の学び合いと交流を図る教室を行った。具体的には、「パソコン教室」「そば打ち教室」「バリスタ講座」により、趣味を広げた。



出前授業 バームクーヘン作り



親子陶芸教室

3. 取組による成果や効果

①活動を通して子どもたちに笑顔がもどった。仲間と一つの目標に向かって協力し合うことの楽しさを実感できた。市内の小学校との連携による「わくわく出前講座」を実施することは学習支援の一助となるとともに、子どもたちの地域の公民館への関心を高めた。

②社会生活の様々な状況を踏まえ、子どもから大人、子育て世代、高齢者等のニーズに応える教室や講座を設定した。参加者からの意見を取り入れながら、内容の見直し等を行うことで、より充実した教室や講座にすることができた。具体的には、先人の知恵や技術、思いを学ぶことができた。日常生活で活用できる。親子の絆が深まった。また公民館の教室に親子で参加したい。一人よりみんなで学ぶことは楽しい。職場でのコミュニケーションに効果がある。以上のように様々な意見があった。



バリスタ講座で焙煎を学ぶ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

○公民館運営審議会を開催し、公民館事業計画、報告及び協議

・公民館事業への参加者を対象としたアンケートを実施する。

・回答結果をもとに、開催方法や要望等を踏まえ、対策や事業改善を図る。（P D C Aサイクルを意識した運営）

・アンケート結果を講師等とも共有し、今後の開催方法等に活かす。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

○新型コロナウイルス感染拡大を理由として、地域の人々の「学び」を止めるのではなく、公民館として出来ること（学びの機会）を計画的に、情熱的に継続する。

・一生に一度の体験よりも、継続できる教室づくり。

・（YouTubeに負けないために）人と人のつながりのなかでの学びを創出する。

・老後（退職後）の日常と人生100年時代を迎えるために、今から備える。



パソコン教室で動画編集を学ぶ

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

○地域の人々が新たな知識の習得をめざし、学び続け、自ら「生き抜く力」を育むために、地域とともに在り続ける公民館でありたい。

・地域の文化を継承し、新しい文化を創造しながら、楽しく、生きがいにつながる事業の推進。

・地域に生きる人々が、共に活躍できる機会の創出。



親子ピザ教室

学校で学び 地域で育つ 慶徳の子

喜多方市慶徳公民館



慶徳公民館（慶徳ふれあい館）



「慶徳稲荷神社御田植祭」早乙女による田植え

公民館の沿革・年表

- 昭和24年11月 旧慶徳村公民館として慶徳小学校に併設
- 昭和29年 3月 市制施行と同時に公民館慶徳分館となる
- 昭和49年 7月 喜多方市慶徳公民館となる
- 平成18年 6月 都市農山村交流センター
「慶徳ふれあい館」が新築落成する
- 平成20年 4月 生涯学習事業「慶徳御田植祭」開始
- 平成23年11月 福島県教育委員会より表彰を受ける
- 平成31年 4月 「会津の御田植祭」が国指定重要無形
民俗文化財となる

公民館の沿革・年表

- 慶徳公民館（慶徳ふれあい館）の全景写真
 - ・伝統的な木造建築技術を活かし、雪国独特の太く頑丈な木組
原材料は地元慶徳産のアカマツ材を活用
- 慶徳稲荷神社御田植祭の写真
 - ・神田のあぜに「デコ」と呼ばれる田植え姿の人形を立て、早乙女が
田植え歌と篠笛に合わせて苗を植え、豊作を祈願する行事である
 - ・神輿の列に農具を持ち白狐の面を着けた子どもたちが加わり、神
田に苗を投げ入れる。
 - ・会津地方では、多くの御田植祭が衰退する中、伝統的な形を
継承している点に大きな特徴があり国の指定を受けた。

1. 都道府県名	福島県	3. 公民館対象人口	1164人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	喜多方市	4. 建物設置年月日	平成18年6月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会)	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2446人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3601人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 356人	合計	7,699人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 1296人 (ni)				
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人
	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input checked="" type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館まつり、町民大運動会、慶徳町敬老会、スポーツ交流大会 等)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (国の重要文化財「長床」をもとに、環境にやさしい自然エネルギーを活かした先駆的な木造建築)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
	(慶徳小学校・慶徳児童クラブ館・喜多方第一中学校・慶徳町行政区長会・慶徳町体育協会・慶徳まちおこし協議会 青少年育成慶徳地区会議・子ども会育成会・慶徳稲荷神社御田植祭保存会・新宮地区重要文化財保存会 等)				

喜多方市慶徳公民館

OPEN 8:30~22:00

TEL 0241-22-1901

HP <https://www.city.kitakata.fukushima.jp/soshiki/tyuou-kouminkan/30745.html>

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ◆当地域には伝統文化や歴史的建造物が多数存在し、以前は会津盆地西部地域の中心として栄えたと見られる古墳なども発掘された。しかし、近年少子高齢化の影響により地域の行事や祭り等が衰退していった。
- ◆子どもの数が減少する中、未来を担う子どもたちに豊かな感性と郷土愛を育み、地域を愛する子どもを育成するために、地元慶徳小学校との地域連携・協働事業をどのように進めたらよいか、模索を続けていた。



長床

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

(1)〔慶徳御田植祭・早乙女踊りの取組〕～ 慶徳稲荷神社御田植祭は半夏生の7/2

- 4月～6月まで、放課後に小学校の体育館で実施。月4回60分程度。
- 対象学年は4年生以上20名(男子10名・女子10名)／全校児童50名。
公民館長がオリエンテーションを行い、早乙女踊りと篠笛の指導は、稲荷神社保存会及び宮司、地域の指導者、公民館職員が当たる。
- 女子は田植え歌に合わせて早乙女踊りを奉納し、当日は神田での田植え行。男子は田植え歌に合わせて篠笛を演奏。また、苗運びの白虎に変装し神田に苗を投げ入れるなどの演技も行う。



早乙女踊りの奉納

(2)〔慶徳！スポーツアカデミー運動教室の取組〕

- 4月～7月まで水曜日の放課後に小学校のグラウンド及び体育館で実施。月3回90分程度。
- 対象学年は2年生以上で全校児童50名中、31名が受講。指導者は町内在住で体育系大学卒の教員有資格者2名が当たり、指導員が補助を努めている。
- 陸上競技の基本を中心にゲーム的な要素も取り入れながら、運動が苦手な子ども得意な子どもレベルに応じて基礎から学び、楽しく運動に親しみながら体力や技能の向上を図っている。



慶徳！スポーツアカデミー

(3)〔地域の文化財巡りの取組〕

- 9月下旬に6年生(10名)を対象として実施。指導者は公民館長・住職・宮司・保存会役員等。
- 市のマイクロバスを利用して町内にある文化財や歴史的建造物等について、現地を訪ねて実際に見学しながら、関係者からの説明を受ける課外授業として行い、ふるさと再発見を目的として実施している。



地域の文化財巡り

3. 取組による成果や効果

- (1)公民館の社会教育と学校の教育力を融合させ、地域の人材を活用した取組を通して、子どもたちが学ぶだけでなく地域の活性化にもつながり、伝統文化を受け継ぐ連携が図られたことは素晴らしい。
- (2)子どもたちが地域の歴史と伝統を知り、行事などに積極的に関わることの素晴らしさを実感できた。
- (3)コロナ禍の中で活動が制限される中、地域の方々子どもたちのために話し合い、早乙女踊りの披露ができたことにとても感動し、伝統を受け継ぎ次の世代へと引き継ぐことの大切さを実感したようである。
- (4)スポーツを通して健康な体力作りが心がけ、楽しく運動できることの大切さを学ぶことが出来た。
- (5)地域の伝統文化や歴史的建造物を直接見聞することにより、郷土を理解し愛する態度が育まれた。
- (6)520年以上継続している慶徳御田植祭が「国の重要無形民俗文化財」として指定された。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ◆慶徳稲荷神社保存会や地域の小学校との話し合いを継続し、PDCAを意識しながら改善を図っている。
- ◆慶徳まちおこし協議会で各種事業や講座の事業評価を行い、よりよい方向へと向かうように改善している。
- ◆地域学校協働活動に関しては、館長が域内の小・中学校の委員となり学校運営協議会で検証を行っている。
- ◆喜多方市の公民館運営審議会を年3回程実施し、事業の検証や指導助言をいただいている。



慶徳まちおこし協議会

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ◆公民館は生涯学習の中核として・地域作りの拠点としての役割を大切に、地域の活性化を図っている。
- ◆「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の基本的な機能を大切に、各種講座や事業の展開を図っている。
- ◆“学校で学び 地域で育つ 慶徳の子”をキーワードとして、学校と地域のそれぞれの持つ教育力を活かした連携事業の展開に努めている。



合同作品展

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ◆少子高齢化の時代、生涯学習の中核として地域作りの拠点である公民館の役割は大きく、地域の公民館としての任務や役割は益々大きくなるものと考えられるので、不易と流行をつま組み合わせていきたい。
- ◆公民館の運営は、地域住民の支援や協力そして何よりも信頼関係が大切である。そのため職員は常に住民目線に立って対応するように心がけている。また、各種団体との連携強化を図り地域の活性化に努めたい。
- ◆“地域の子どもは地域で育てる”という考えの基、地域の小・中学校との連携強化をさらに深めていきたい。



茶道体験

市民が活躍し輝くことができる「まち」



もりや市民大学 ハイブリット授業



パンフレット

守谷市 守谷市民活動支援センター

公民館の沿革・年表

- 平成14年 2月 守谷市民活動支援センター開設 (浄化センター内)
- 平成18年12月 中央公民館内に事務所移転
- 平成20年 4月 市民交流プラザ内に事務所移転
- 平成24年10月 もりや市民大学開校
- 平成28年 3月 NPO法人協働もりやに委託
- 令和 3年 6月 もりや市民大学ハイブリット形式で開講

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- もりや市民大学
平成24年の開校から、守谷市の「協働のまちづくりの担い手」を育成するため、様々な分野の活動に必要な知識や技能を学ぶ場を提供している。令和3年度はオンラインと対面のハイブリット形式で開講した。
- わんちゃんと一緒に読書
「命の授業講演会」・「セラピー犬『ジョン君』と一緒に本を読む」。殺処分の前日に救われた捨て犬を通して命の尊さを伝えた。犬に本を読んであげる「リードプログラム」というユニークなスタイルを実施した。



わんちゃんと一緒に読書

1. 都道府県名	茨城県	3. 公民館対象人口	70,000	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	守谷市	4. 建物設置年月日	平成20年4月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	3台	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input checked="" type="checkbox"/> その他 (NPO法人協働もりや)					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2,795 <input checked="" type="checkbox"/> その他 42人 (パソコン等相談件数)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3,075 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 2,400人	合計	8,312人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 5人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 合計 7人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民大学)	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (児童センター・ファミリーサポートセンター・家庭児童相談室) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他		

守谷市市民活動支援センター

OPEN 10:00~18:00

H P

<https://moriya-cac.org/>

T E L 0297-46-3370

S N S

https://www.instagram.com/moriya_shiencenter/



HP

インスタ



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 地域活動を活性化するために、既存の市民活動団体の強化と新規団体を育成することが必要である。市民に対してイベントや他の登録団体の活動の情報や交流の場を提供することで、ボランティア意識の啓発と活動の支援を行っている。令和3年度は91の団体が活動団体として登録しているが、登録団体の構成員の高齢化が課題である。
- コロナ禍で、オンラインをうまく取り入れて活動を継続している団体と、全く活動ができないため停滞または解散してしまった団体と二極化した。団体のパワーの格差が大きくなり、この差を縮めることが課題である。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【もりもりクイズ】

毎週1問ずつクイズを出題し、スタンプとシールをためて「君だけのMORIYAの地図をつくる」子どもや親子を対象としたイベント。通年継続して行うイベントとして、初年度の令和3年度は「私たちのまちを知ろう編」として、守谷市の地図を完成させた。

【楽しくかんたんオンライン講座】

新しいボランティア活動のツールとして、オンラインを取り入れることで環境の変化に順応できる活動を目的とした講座を令和2年度に引き続き開催した。令和3年度は、主催側も学べるプログラムや団体向けの講座も行い、61名が受講しコロナ禍でも行えるような活動のスキルアップに繋がった。令和4年度は「楽しくデジタル講座」を開催予定。

【はじめてのInstagram講座】

情報を発信・収集するツールの一つとしてInstagramの利用方法を学ぶことで、市民活動の情報発信を促した。大学生がボランティアで企画・運営・講師となり、高校生のサポートにより実施した。

【インクルーシブ公園】

誰もが遊べる公園（インクルーシブル公園）の誕生を目指している。昨年度は、講師に龍園あいり氏を招いて、講演会とワークショップを開催した。



もりもりクイズ



楽しくかんたんオンライン講座

3. 取組による成果や効果

【もりもりクイズ】

各児童館や図書館と連携して行い、普段センターを利用しない世代が参加した。クイズの問題は、HPでも閲覧できる仕組みをつくり市内全域での参加が実現できた。子どもたちが足を運んでくれ、館内も活気にあふれていた。

【楽しくかんたんオンライン講座】【はじめてのInstagram講座】

楽しくかんたんオンライン講座では、16回の講座で延べ160名の受講者が参加。デジタル環境の急激な変化に高齢者が取り残されるデジタル・デバイドが広がらないよう今後も続けていく。また、高校生から小学生までが教える側のボランティアとして参加してくれたことで、世代間交流が創出できた。



はじめてのInstagram講座

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

近年、福祉・環境・教育等一つの分野ではとても解決できない課題を抱えていることから、分野や世代を超えた地域全体課題解決する仕組みづくりを構築している。また、活動を行っている団体に、コロナ禍においても活動できるよう、ICTを活用した「新しい生活様式」を取り入れた活動の手法を提唱し、ボランティア活動が活発になっている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

守谷市民活動支援センターは、市民と行政をつないでいる中間支援組織である。この役割を生かし、今後は近隣の市町村なども連携し「守谷のファンを増やす（関係人口を増やす）」ための施策を考えたい。また、コロナ禍でも行えるイベントや講座を提供することで、市民がいつまでも楽しんで生きがいを持てるような暮らしのお手伝いをしたい。



市民活動支援センター

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

急速に進む高齢化と社会のデジタル化に伴い、高齢者デジタル・デバイド問題が起こっている。今後ますますデジタル化は進み格差は広がることが予想される。当センターでは、いち早くオンライン講座やデジタル講座を開催したが受講者が活用するまでには至らないため、次の仕掛けとしてはスマートフォンを活用して料理のレシピや調理法を学べるクッキング教室や歩数計機能と連動したウォーキングや体操教室など、ICTを活用した体験型イベントを行っていきたい。



高齢者向けデジタル講座

地域の力で安心な子育てができる居場所づくり

高崎市佐野公民館



16ミリ映写機の光を利用して影絵を作ろう！



離乳食やおやつ選び方に悩むあなたを応援します！

公民館の沿革・年表

- ・昭和44年 高崎市佐野公民館開設（木造）
- ・昭和63年 施設改築（鉄筋コンクリート）
- ・平成6年 図書室増築
- ・平成10年 事務室増築
- ・平成18年 図書ボランティアの会が高崎市公民館
図書ボランティアグループ表彰を受賞
- ・平成25年 優良公民館群馬県教育委員会表彰受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

【さの公民館であそびや】（左上）
NPO法人と企画段階から連携した事業で、**子どもの体験活動の充実をとした居場所づくり**を行っている。毎回様々な活動を行っており、写真は16ミリ映画を鑑賞したのち、映写機の光を利用して一人ひとりが影絵を作って遊んでいる様子。

【知っておきたい！乳幼児期の食事とおやつのお話】（左下）
子育てサロンと連携し、地域の子育て支援に継続して取り組んでいる。写真は保健師から離乳食や幼児食の内容や食事の進め方、おやつ選び方などの話を聞いている様子。

1. 都道府県名	群馬県	3. 公民館対象人口	16095人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	高崎市	4. 建物設置年月日	昭和44年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 549人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8126人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1153人（図書貸出し795人、佐野小学校児童社会科見学150人他）				合計 9,828人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（高崎市佐野郷公民館運営推進委員会）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（コンクリート打ち放し構造で、館内の吹抜の面積が広く開放感がある。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 佐野小学校、NPO法人高崎子ども劇場、区長会、地域づくり活動協議会、体育振興会、町内公民館長会、佐野地区協議体、高崎市保健所				

高崎市佐野公民館

OPEN 9:00~21:00 H P <https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013122500202/>
 TEL 027-322-8507 SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 若年層家族の転入が多い地域で、地域での交流のきっかけも少なく土地勘も無い中で子育てに不安や悩みをもつ親も多い。
- 子どもや親子、あるいは子を持つ親が安心して気軽に集まり活動、交流できる居場所が地域に必要とされている。コロナ禍により地域住民の交流が減少しており、今まで以上に拠り所としての公民館の役割が高まっている。
- 公民館の対象地域が小学校区で住民との距離が近いため、地域人材の情報を多く集めることができる。この強みを活かして地域人材と連携することで、公民館が安心して集える場となるよう取り組んでいる。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【さの公民館であそびや（子どもの体験活動の充実）】

子どもの居場所づくりに取り組むNPO法人高崎子ども劇場に佐野校区在住スタッフがいることから、企画立案から協力し子どもたちの体験活動を行っている。空き缶鉄砲作り、コマ回しやドミノなど昔ながらの遊びや地域散策など子どもたちと大人と一緒に活動している。

【こころとカラダの軸を育むキッズヨガ（子どもの体験活動の充実）】

子どもの心身ともに健康な体づくりを目的に子ども向けのヨガを行った。講師となる地域人材の発掘により実現し、講師の指導がよく親育てにもつながった。

【自然と笑顔になるおやこじかん（親子の居場所づくり）】

こちらもNPO法人高崎子ども劇場と連携し、親子の居場所づくりを行っている。手遊びや段ボールのトンネルくぐり、絵本の読み聞かせなど様々な活動をしているが、あえてゆる〜く過ごせる時間づくりを心掛けていることが好評で、地域での親子の交流のきっかけとなっている。

【知っておきたい！乳幼児期の食事とおやつのお話（子育て支援）】

民生委員児童委員協議会が運営する佐野地区子育てサロンと連携し、離乳食の進め方やおやつを選び方について学んだ。子育てサロンと連携した事業を継続して行っており、転入して間もない保護者の参加も多く、子育ての悩みを相談できる場にもなっている。



ブロックの上で片足で立ってみよう！
（こころとカラダの軸を育むキッズヨガ）



ダンボールのトンネルをくぐろう！
（自然と笑顔になるおやこじかん）

3. 取組による成果や効果

【特徴的な取組・活動による成果】

- NPO法人が有する豊富なノウハウを活用することができ、現在ではスタッフが中心になり公民館サークル活動として定期的に「あそびや」を行っている。
- 取り組んできた事業をととして、子育て中の親にとって公民館が、行けば何か情報がある、話を聞いてもらえる、誰かに知り合えるかもしれない場所になっている。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 地域人材の活用が、住民の活躍の機会にもなり、活動内容の向上にもつながっている。また、事業をととしてサークル化するなど、新たな自立した活動につながっている。
- 地域人材が地域住民を受け入れ、地域住民をつなぐことで、気軽に行ける公民館という雰囲気づくりができ、公民館が地域住民の安心安全な居場所となっている。



サークル「佐野あそびや」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 区長会や地域の団体、小学校長らで構成する公民館運営推進委員会を年2回開催し、事業実施内容の検証を行い次年度事業計画に活かすことでPDCAサイクルを機能させている。
- 事業実施後のアンケートのほか参加者に直接ヒアリングし率直な意見を聴取している。
- 公民館利用者との普段からの積極的な情報交換により運営事業方針の見直しや改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館は子どもや親子をはじめ地域住民が安心して集える居場所である必要があり、コロナ禍を経験してその思いは一層強くなった。この環境をより良くすることを常に意識し公民館運営に取り組んでいる。そのために、地域住民との積極的なコミュニケーションを行い、地域人材の情報を常に収集し、地域の人を活かして地域課題解決のための事業を行うことを大切にしている。



外観が特徴的な佐野公民館

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館では、誰もが単なるサービスの受益者ではなく、いきいきとした主人公になれる。また、公民館はすべて住民にとって安心安全な居場所である。地域住民にそう思ってもらえるよう、地域人材との連携を広げることが重視しながらPDCAサイクルをより機能させていく。そして住民が主体的に活動し、安心して暮らすことができる地域のための公民館としての価値を高めていきたい。



公民館では誰もが主人公

人とふれあい、楽しく学ぶ公民館

太田市休泊公民館



外観



味噌づくり教室

公民館の沿革

休泊公民館が設置されている休泊行政センターは、「小さな市役所で大きなサービス」をキャッチフレーズとする地域に密着した施設である。生涯学習の場としての公民館機能、戸籍・住民票、税業務及び陳情・要望の受付等の行政窓口機能、入浴施設(令和4年3月末廃止)、ロビー、フリースペースを提供するふれあい機能など、総合性を持たせた地域のふれあいセンターとして建設が計画され、直接市民の意見を聞くため、「まちづくり委員会」を設置して要望の多くを採入れ、コンペでもそのコンセプトを重視するなど住民参加に重点が置かれた。

建物は平成10年9月に竣工し、太田市総合ふれあいセンターの名称でスタートした。平成12年4月に太田市休泊行政センターに名称を変更した。住民一人ひとりが主役となり生涯学習を実践する地域の拠点として住民に長年親し

左図・写真の説明等

●大好評の市民教室「味噌づくり教室」の様様

市民教室では、料理、手芸、運動の人気が高いが、初心者を対象とした「味噌づくり教室」は人気講座の一つである。参加者は申込み数が定員を大幅に上回ったため、抽選で決定し、男女8名が参加した。

参加者の大半が、初めての体験のため、はじめは、不安そうに取り組んだり、なかなか手が出せない様子だったが、慣れてくるとともに楽しそうに取り組んでいた。教室後に実施した参加者アンケートの結果は、全員が「満足」の回答で、「楽しかった」「出来上がりが楽しみだ」「また参加したい」などの意見をいただいた。こうじ室がある公民館は市内で他に1館のみであり、休泊公民館ならではの講座である。

1. 都道府県名	群馬県	3. 公民館対象人口	12307人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	太田市	4. 建物設置年月日	平成10年9月30日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数		
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (太田市)					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 540人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 14248人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 6078人 (連絡所業務等)				合計	20,866人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 6人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 6人					
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()					
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (行政センター) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (休泊小学校、休泊中学校、大泉高校、休泊地区社会福祉協議会、休泊地区青少年健全育成推進会議)					

太田市休泊公民館

OPEN 8:30~22:00

H P <http://www.city.ota.gunma.jp>

T E L 0276-49-0201

SNS http://twitter.com/OtaCity_PR



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 少子高齢化、地域のつながりの希薄化等様々な問題が山積みする中、一人ひとりが健康で有意義な生活を送れるよう、学びと活動の場を提供することが公民館の役割と考える。
- 市民教室や高齢者学級では、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の住民に学習機会を提供し、生涯学習を推進するとともに、地域コミュニティの形成および地域活性化を図る。
- 子ども体験講座では、地域の未来を担う子どもたちの育成のため、地域づくりの推進のために、地域と学校が連携・協働する足がかりとする。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

○講座の開催

【市民教室】

市民の方に生涯学習の喜びや楽しさを広げ高める機会を提供する。

実施後のアンケート結果を検証し、要望を取り入れて翌年度の計画を立案している。

令和3年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため感染対策を徹底して実施した。

☆令和3年度実績

- ・年間11講座（運動、料理、手芸等） 延べ31回、540人参加
- ・他にはない「こじ室」があり、初心者を対象にした「味噌づくり教室」も人気講座の一つである。

【高齢者学級（休泊ふれあい大学）】

健康で有意義な生活を送れるよう、学習の機会を提供する。

実施後のアンケート結果を検証し、要望を取り入れて翌年度の計画を立案している。

☆令和元年度実績（令和3年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

- ・年間11回開催（講義、軽スポーツ、合唱、館外研修等） 延べ633人参加

【子ども体験講座】

地域と学校の連携・協働の取り組み

☆令和元年度実績（令和3年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

- ・土曜日に休泊小学校で5つの講座（工作2・吹き矢・フラダンス・お菓子作り）を開講
- ・講師は公民館登録団体、小学生85名が参加



市民教室（大人リトミック）



高齢者学級（交通安全教室）

3. 取組による成果や効果

【市民教室】

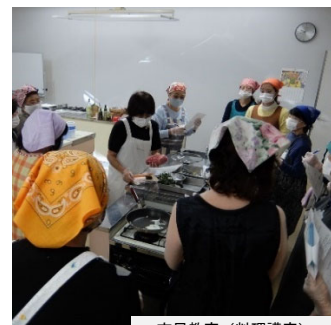
- ・主に初心者を対象としており、体験によりサークル化へ繋げ、生涯学習の推進を図ることができた。
- ・参加者同士の交流をととして、親睦を深めることができた。

【高齢者学級（ふれあい大学）】

- ・11回の講座により、健康で有意義な生活を送り、生き甲斐を持った生活に繋げることができた。
- ・高齢者同士の交流の場となり、生活に密着した情報交換をすることができた。
- ・参加者が主体的に学び、つながることでコミュニティの活性化を創出できた。

【子ども体験講座】

- ・登録団体のメンバーが子どもたちに教える活動を通して、やりがいや生きがいを感じる事ができた。



市民教室（料理講座）

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 実施後のアンケート結果を検証し、市民ニーズを取り入れ翌年度の計画立案をする。
- 館内会議では、講座の様子や参加者の意見等を客観的に評価し、検証改善を行いPDCAサイクルを実践している。
- 太田市行政センター主事等会議で、各行政センターの実施事業等の情報交換を行い、翌年度の参考にする。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・地域住民の学びの場として生涯学習の拠点となるとともに、地域住民が力を合わせて地域をつくる拠点となるよう手助けをする。
- ・関係団体と連携協力し、地域コミュニティの活性化に取り組む。
- ・利用者が安心・安全に利用できるよう常時施設の点検整備を行い、修繕等に早急に対応している。



生涯学習（救急救命講座）

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・子どもから高齢者まで幅広い世代が主体的に学び、仲間づくりの場を継続して提供していく。
- ・地域の未来、子供たちの未来のために、公民館区域内に一つの小学校、一つの中学校がある、休泊という地域性を生かして、地域全体で子供たちを育てられるよう、地域と学校の連携・協働の推進拠点を目指していきたい。



高齢者学級（消費生活講座）



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 七里公民館は市街地と見沼たんぼが広がり、都市的な生活環境と自然の魅力が共存している地区にあり、その特色を生かして、地域の写真の展示と映像を上映する事業を行っている。また、公民館まつりの際は地域内の障害者福祉施設利用者の作品を展示するなど、障害のある方と地域とがつながることを応援している。
- 地域住民からは、高齢者向けの体操系講座を多く実施して欲しいといった声が多くあり、介護予防事業の中で独自の体操講座を企画・実施しているほか、高齢者を対象としたラジオ体操を毎朝実施している。また、公民館活動に関して公民館利用者から、自身の経験と知識を生かした有意義なアドバイスをいただくことがある。
- 公民館として地域住民のニーズに応える中で、これまでの学習や学び直しによって身に付けた知識・技能や経験を地域社会での活動に生かせる場、「学び」と「活動」の循環の場を提供できないかと考えた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●さいたま市公民館では、新たな学びの拠点として、新しい時代の公民館のあり方と中長期的な目標を明確にし、それを住民と共有するため、令和3年3月に「さいたま市公民館ビジョン」を策定した。

●【講師発掘講座】「私、こんな講座をできますけど」

地域の中に有為な人材が埋もれているのではないかと考え、公民館事業・講座の「講師」として活躍、デビューできる人材を発掘しようと企画したものである。また、時には受動的な立場から脱却し積極的に『発表』して、自らの問題意識を深化させることは、生涯学習の観点から大切なことだと考えた。講座名は「肩ひじ張らない」をコンセプトに固くないものとした。初めての試みであったことから、講師希望者の定員は6名程度とし、一人当たりの模擬講座時間を5～10分程度とした。結果的に講師としての応募は3名、加えて公民館職員4名もトライアルで参加した。

「既に身に付けたことを活かしたい」という意欲をすくいあげることに主眼を据え、講師と評価者がそれぞれ入れ替わり、役割交替・相互評価を行う形式とした。また、模擬講座に対する一般の方の評価も参考にしようと考え、観覧希望者も募集した。

結果として模擬講座の内容は良好で、一般観覧者からの評価も高かった。

講師発掘講座
「私、こんな講座をできますけど」

文学・歴史・体操・演奏など、あなたの知識・技能を生かし、地域の皆さんに伝えてみませんか？
プレゼンテーションの観覧希望者も募集します。

日時 令和4年1月27日（木）
10時～11時30分

会場 七里公民館

講師希望者	観覧希望者
募集人数：6名程度 申込み：12/23(木)～1/6(木) (12/29(水)～1/3(月)を除く)	募集人数：30名程度 申込み：12/23(木)～ (12/29(水)～1/3(月)を除く)
七里公民館での講座企画を前に、当日実際に5～10分程度の講師プレゼンテーションをしていただきます。	多様多様（予定）の講師プレゼンテーションを聞くことができます。終了後はアンケートにご協力ください。

講師希望者・観覧希望者とも、まずは七里公民館窓口または電話でお申込みください。講師希望者は、申込の申込書にプレゼン内容を記入していただきます。
申込み・お問い合わせ先：七里公民館 電話 666-4721

講座チラシ

3. 取組による成果や効果

- 当該講座に応募した3名とも翌年度の講座講師としての起用が決定し、地域人材の発掘と「学び」と「活動」の循環の場の提供につながった。
- 既存の仕組みにエントリーしていない、意欲をもつ人材が地域にいることを確認できた。
- 意欲はあるけれど、講師を務めるには自信がないという人を聴講・評価者役として受け入れることで、「自分にもできるかも」という背中を押すきっかけづくりともなった。
- 公民館職員も講師役を務めることで、講座企画・講師選定の際の留意・着眼点を広げ深めることができ、さらに職員自らが講師を務める可能性も広げることができた。



公民館職員も講師役に挑戦

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座参加者へのアンケートや講師等事業関係者とのコミュニケーションの中で、感想や意見を伺う。
- 七里公民館連絡会や七里公民館利用団体代表者会議において、地域の方や利用団体からの意見を集約している。
- 公民館職員同士で情報共有や話し合いを行い、課題の発見・解決を図っている。また、他館の取組も参考にすることで公民館運営に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

当館のキャッチフレーズ「地域のリビングルーム」は、地域の人々が気軽につどい、学びを通じてつながりを深める場、地域のつながりの拠点となることを目指したものである。これまで積み重ねてきた地域諸団体・関係機関・企業等、多様な主体との連携を一層広げ深め、やすらぎ憩う場として課題も解決できる地域のリビングルームとなっていきたい。



親子サロン

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 子育て世代・ファミリー層・学生・若者を取り組むために、事業内容や開催日時についてニーズに合ったものとなるよう、これからも検討していく。
- 異世代での公民館サークル活動を企画した事業活動を心掛け、結果として「地域力の向上」につながるような運営を心掛けていきたい。



夏休み子ども公民館「マイ著作」

ふらっと立ち寄れる、アットホームな公民館

川口市芝富士公民館



わんぱく卓球

公民館の沿革・年表

- 昭和45年 竣工・開館
- 昭和46年 第1回芝富士公民館地区文化祭開催
- 昭和48年 料理実習室完成
- 昭和54年 「川口市食生活改善推進員協会」発足
- 平成13年 「卓同好会」発足
- 令和元年 ホール空調・非常用照明器具修繕
- 令和2年 事務室窓口拡張
- 令和3年 オンライン講座（動画配信）スタート

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

芝富士公民館は高齢者から子どもまで、幅広い年齢層をターゲットにした事業を実施している。

その一つに「わんぱく卓球」がある。以前は小学生と公民館利用団体のみの参加であったが、広報をして保護者も参加するようになりそれにより、子ども、保護者、地域の人達が交流を深められる機会となり、地域の活性化につなげることができた。

また、公民館に興味を持ってもらえるよう、公民館だよりをリニューアルしたり、公民館になかなか来られない働き世代や子育て世代も講座を受講できるよう、オンライン講座（動画配信）を実施したりすることで、地域住民の学びをサポートしている。

1. 都道府県名	埼玉県	3. 公民館対象人口	5436人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	川口市	4. 建物設置年月日	昭和45年10月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1271人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 9406人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 93人 （運営審議会、青少年育成協議会総会、献血会等）				合計 10,770人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（対象地域が1つの町会のみであり、地域に密着した公民館です。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 川口市立芝富士小学校、芝富士町会、公民館定期利用団体（卓同好会、川口市食生活改善推進員協議会等）、地区青少年育成協議会、川口市役所子育て支援課、地域包括支援センター				

川口市芝富士公民館

OPEN 9:00~21:00 (祝・日17:00)

H P

4010/020/8/21/index.html

TEL 048-265-6211

SNS

YouTube 川口市生涯学習課





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

芝富士公民館地区は、住民の約30%が65歳以上の高齢者である。そのため、高齢者が公民館の主な利用層となっている。また、日々多忙な働き世代や若い世代は公民館に来館しにくい傾向がある。これらのことから、より幅広い世代へのアプローチが課題となっていた。

そこで、若い世代や働き世代にも公民館に来館し、利用してもらえるように、「わんぱく卓球」や「オンライン講座」を実施するとともに、地域や公民館の様子、事業風景等を公民館だよりに分かりやすく掲載し、来館せずとも地域や公民館の様子が伝わるようにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【わんぱく卓球】

公民館の利用団体がボランティアで講師をしており、卓球を通じて友達・親子・地域の人達の交流を深めることを目的としている。

また、隣接している川口市立芝富士小学校では放課後子供教室が未設置であるが、子ども達の健全で安全な「放課後の居場所」としての機能も担っている。

【健康体操教室】

65歳以上の高齢者が対象で、参加者の筋力アップと健康を目的とした事業。

芝富士公民館地区は高齢者の割合が大きいため、高齢者対象の事業も充実させている。毎年実施している事業だが、人気も高く、多くの高齢者が参加している事業。

【オンライン講座の導入】

コロナ禍の影響から対面講座が困難であるため、来館せずとも学習の機会を提供しようということから、4つのオンライン講座（動画視聴型）を実施した。

オンライン講座は、視聴される方の生活スタイルにあわせて時間を選ばず受講できるメリットがあるので、働き世代や子育て世代等の普段公民館に来館することが難しい方にも学びを提供することができた。

【芝富士公民館だよりのリニューアル】

「芝富士公民館だより」は毎月発行し、全戸配布している。少しでも多くの地域の方々に来館していただくため、コロナで来館できないのであれば、公民館だよりを使って「こちらから勝手に皆さんのところに行こうではないか！」の精神でリニューアル発行した。

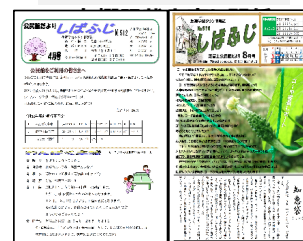
□リニューアル内容…見せ方の工夫（写真や表を多用）、公民館独自の情報発信（ゴーヤ成長レポート等を毎月継続的に掲載し、次号のご愛読に繋げる）、地域住民の方々にアンケート実施（当該公民館の認知度等を把握するため）、二次元コードの導入（色彩豊かな公民館だよりをカラーで見てもらうため。また、紙ベースからの脱却を模索し環境に配慮）etc.



健康体操教室



初めてのオンライン講座



芝富士公民館だよりBefore→After

3. 取組による成果や効果

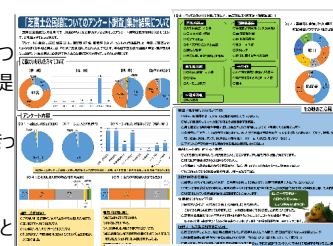
わんぱく卓球やオンライン講座により、今まで公民館に来館したことのない若い世代の層にアプローチすることができた。

わんぱく卓球では、子どもの送迎で公民館に立ち寄るだけでなく保護者も一緒に卓球をすることで、幅広い地域住民とつながることができた。子どもにとっても、友達との交流や多世代交流を経験することができ、学びや成長を支える良い機会を提供できた。

また、講座の講師を利用団体に担っていただくことで、地域住民の交流が深まり、より一層地域づくりが活発になっていきかけになった。

公民館だよりのリニューアルに対する地域の皆さまからの評価には、定期利用団体のクラブ員からの「見やすくなった。」や「ゴーヤの成長を楽しみにしています。」などのリアクションがあった。地域住民同士がつながるだけではなく、職員も地域住民とつながりを深められたことで、今後の公民館活動や地域づくりの更なる充実に向けた期待が高まっている。

また、公民館だよりにて、「公民館についてのアンケート」を実施し、公民館の講座や、取り組み等地域住民のニーズを知ることができた。今後に生かしていきたい。



アンケート結果

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 参加者にアンケートを実施し、講座自体の評価、多様な意見を踏まえながら、検証・改善を行っている。
- オンライン講座についても、オンラインにてアンケートを実施し、検証・改善を行っている。
- 公民館運営審議会にて、事業の効果や成果の検証や、地域課題、住民のニーズを踏まえながら事業計画をしている。
- ブロック会議や主事会等を通じて他の公民館と情報交換などを実施し、事業計画や運営に役立てている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「You can't inspire people if you are going to be uninspiring」＝「自分が感動せずして人を感動させることは出来ない。」とアメリカの経済学者：ロバート・B・ライシュの名言があり、当該公民館も事業等を企画する際は、自身も楽しみ、地域の方に胸張ってお勧めできる内容の事業を企画することが大事であるとする。

生涯学習の拠点としての事業展開はもちろん、人と人の繋がりを大切にした「コミュニティの拠点」としても、地域の皆さまに愛される公民館及び職員でありたいと願い、来館された方が気持ちよく利用し笑顔で帰っていただけるよう、日々の窓口・電話対応などの接遇に力を入れている。

また、右記の写真のように、狭かった窓口を拡張したことで、利用者の方と職員が窓口カウンター越しにコミュニケーションをとる機会がふえた。



公民館施設の改善

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

コロナ禍だけの苦肉の策ではなく、今後も、芝富士公民館は地域の皆さまだけにとどまらず、多くの方々に芝富士公民館を知っていただくための情報発信のツールとして、「電子版の公民館だより」や「オンライン講座」を継続していきたい。

また、コロナ終息後は、定期利用団体などの限られた利用者だけではなく、「ふらっと立ち寄れる、アットホームな公民館」を目指したいと考えている。きっかけは様々であるが、立ち寄った際に公民館を思う存分PRできるような掲示物や参加しやすくなる様なクラブ紹介などの情報を紙ベース並びに二次元コード等を用いて情報発信できればと検討している。まずは、公民館だよりで公民館に対する「気づき」を与え、来館していただくという作戦は、今後も継続していこうと思う。



芝富士公民館

中学校合同体育祭 みんなで地域を元気に

深谷市明戸公民館



選手宣誓する自治会代表と中学校代表



全力で駆け抜ける分館対抗リレー

公民館の沿革・年表

- ・1954年 7月 明戸公民館 創設
- ・1956年11月 第1回「明戸地区市民体育祭」の開催
- ・1994年 3月 明戸公民館体育室の開設
- ・2008年 9月 第53回「明戸地区市民体育祭」から明戸中学校と合同開催
- ・2008年12月 明戸生涯学習センター・明戸公民館の新設

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

明戸地区市民体育祭は、明戸公民館創設後、1956年（昭和31年）に第1回目が開催され、66年という長い歴史がある。明戸中学校との合同体育祭は、中学校からの申し出により2008年（平成20年）から始まる。この合同体育祭は、中学生を含む幅広い世代の交流を含め、地域の一体感を醸成することにより、明戸地区の人々に地域を支える一員としての自覚を促し、郷土愛が一層育まれることを期待して実施している。

1. 都道府県名	埼玉県	3. 公民館対象人口	4285人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	深谷市	4. 建物設置年月日	平成19年12月27日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 107人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 18389人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 29人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 3143人 ()			合計	21,668人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)			合計	4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (明戸保育園、明戸小学校、明戸中学校、明戸公民館運営審議会、自治会連合会明戸支会、明戸地区社会福祉協議会、明戸地区青少年健全育成会、明戸婦人会)				

深谷市明戸公民館

OPEN 8時30分～22時00分 H P
TEL 048-571-0872 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・当初、明戸地区市民体育祭は、中学校と合同開催でなく地域の体育祭として単独で行っていた。
- ・明戸地区は、いわゆる農村エリアで少子高齢化が進んでいる。そのため、地区市民体育祭に必要な選手や参加者が減少しており、今後どのようにイベントを継続していくか、また盛り上げていくかが課題であった。そのような中、明戸中学校から「中学校の体育祭と地域の体育祭と一緒に開催したい」という申し出がありました。公民館としても、地域との交流が深まること、参加者人数が増えることでイベント自体が盛り上がるという理由から、中学校と合同で体育祭を開催している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

・深谷市の地区市民体育祭では、主に地域の方が参加し、その関係者が応援するというスタイルである。しかし、明戸地区の市民体育祭は、深谷市で唯一、明戸中学校の体育祭と合同で行っている。合同開催により地域のとの交流を深めるだけでなく、生徒たちにとっても「自分も地域の一員として参加している」という自覚や郷土愛につながることを期待している。今後も、引き続き、中学校と合同で開催できるよう連携を図っていく予定である。

○体育祭準備等

・体育祭開催にあたっては、準備会議1回、全体会議1回、計2回開催している。会議では、大会実施要領、役員分担内容、当日プログラム等について協議している。中学校の生徒の役割については、事前に打ち合わせ会議で決定している（国旗掲揚、準備体操、選手宣誓等）。

○運営の工夫など

- ・自治会と中学校の合同開催の強みを生かすために、パンくい競争やグラウンドゴルフリレーなど、未就学児や高齢者に配慮した種目をプログラムに盛り込んでいる。
- ・生徒とのふれあいや交流を深めるため、中学生と地域住民と一緒に参加する「ラグビーボール手渡しリレー」を取り入れている。
- ・出場選手確保の負担軽減のため、ふるさと選手枠を導入している（地区に実家があれば、地区外でも出場可）。
- ・スポーツ推進員や地域防犯推進員、小中学校PTAに参加を依頼し、運営ボランティアとしての養成に努めている。
- ・大会終了後、関係者との反省会、公民館運営審議会を開催し、問題点や改善点を伺い、地区住民のニーズを翌年度に反映できるよう、競技種目のルール改正や運営方法を見直しをしている。



体育祭合同会議



ラグビーボール手渡しリレー

3. 取組による成果や効果

- ・普段出会うことがない人たちと交流することで、新しい出会いや発見が生まれる。
- ・競技練習や本番を通して、**自治会の絆や連帯感が醸成**される。
- ・中学校の生徒と地域住民との世代間交流が生まれる。
- ・生徒の親が体育祭に行くことにより、**自治会競技の選手集めが楽**になる。また、体育祭全体として**参加人数が増える**。
- ・生徒が大人と一緒に体育祭に参加することで、「自分も自分も地域の一員として参加している」、「明戸地区は心の通った温かい地域」という**自覚や郷土愛**につながる。



出場選手たちの記念撮影

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・体育祭終了後、自治会長、自治会体育部長、公民館体育部員等が集まり反省会を開催し、種目競技のルール改正や運営方法などの問題点や改善点について意見をいただいている。
- ・学識者や学校、自治会関係者等15名で構成する公民館運営審議会（年5回）でも、取組の検証や問題点等を伺い、次年度に出来るだけ反映する努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・地区住民の地域活動や住環境等の要望を支援するなど、公民館は、自治会や関係団体等をつなぐサポート役と考えている。地域の方々と一緒に考え、問題点を改善していくなど、**市民が主体とした活動**できる場の提供が重要と考える。



明戸地区芸能祭

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

今後人口減少が進行する中、今まで行ってきた事業を全て実施することが困難になっているため、事業のスクラップ・ビルドについて検討していきたい。また、未就学児から高齢者が誰でも参加できる事業について、自治会や関係団体の方と一緒に考えていきたい。



時代とともに変化する公民館を目指して

船橋市東部公民館



東部公民館外観



オンライン事業の様子

公民館の沿革・年表

- ・昭和28年 船橋市公民館前原分館として設立
- ・昭和35年 東部公民館に改称
- ・昭和52年 現在地に新築開館
- ・平成29年 優良公民館として文部科学大臣賞受賞
- ・令和4年 第4回全国公民館インターネット活用コンクール金賞受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

写真上段は東部公民館の外観。JR津田沼駅から徒歩3分的好立地であり、市内26公民館で最も利用率が高く、多くの市民に利用されている。

写真下段は令和2年度開催「ニュージーランドで過ごす夏のクリスマス」の様子。参加方法を公民館またはオンラインの選択制にしたことで、20代～80代の幅広い世代で70名（公民館20名、オンライン50名）の参加があった。オンライン参加者からは「旅行に行けないコロナ禍で、現地のガイドの方に案内してもらえてとても楽しいひと時だった」など高評価だった。

1. 都道府県名	千葉県	3. 公民館対象人口	46,331人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	船橋市	4. 建物設置年月日	昭和52年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	100台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 181人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 54,835人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,757人	合計	56,773人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 6人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 9人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 (連絡所)	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (JR津田沼駅から徒歩3分という交通至便な商業地の一角に立地している。)			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 前原小学校、中野木小学校、二宮小学校、前原地区社会福祉協議会、前原地区スポーツ推進委員会、社会教育課、青少年課、前原児童ホーム、船橋国際交流協会、ソフトバンク(株) 他

船橋市東部公民館

OPEN 9:00~21:30

TEL 047-477-7171

HP https://www.city.funabashi.lg.jp/shisetsu/toshokankominkan/0002/0005_0001/p011024.html

SNS <https://m.facebook.com/funabashi.kominkan26>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館が続いたことから、「**新しい生活様式**」としてオンラインでの繋がりが求められた。
- ②公民館の利用率が減少傾向であり、かつ、利用者は60歳以上が主流であることから、**新たな利用者層の開拓**が必要である。
- ③スマートフォン等の普及により、インターネット利用率が向上しているが、一方でそのような**デジタル機器が使用できない人がいる**といった「**デジタルデバインド**」の問題が生じている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【オンライン事業（ICTの活用）】

上記①、②の課題から、自宅からでも参加ができる**オンラインツールを活用した事業**を実施。令和2年度に「ニュージーランドで過ごす夏のクリスマス」、「今日から私もユーチューバー」。令和3年度に「仕事もプライベートも話し方で変わろう」を開催した。

【公民館でスマホ・タブレットの使い方を支援（高齢者の学び支援）】

上記③の課題から、「デジタルデバインド（ICTを使いこなせる人とそうでない人の格差）を解消していくことで、市民がICTの恩恵を享受できるようにする」ことを目的に、スマートフォンやタブレットなどの使用方法を学ぶ「**デジタルデバインド対策事業**」や、公民館に来館した市民からのスマートフォンに関する“ちょっとした質問”を公民館職員が受け付ける「**スマホコンシェルジュサービス**」を令和3年度より市内公民館で開始。

【船橋市公民館Facebookの運用開始（ICTの活用）】

公民館でFacebookを活用し、写真や動画を利用して公民館の楽しさを常時PRすることで、「**既存の利用者により公民館を身近に感じてもらう**」ことやFacebookの利用者層である30代～50代に事業を周知することで「**新規の利用者の獲得**」を目指すことを目的に令和3年度より運用開始した。

【公民館HPの変更やオンライン申請システムの活用（ICTの活用）】

公民館のトップページにタブを作成し、知りたい情報をすぐに見つけられるよう工夫を行った。また、デジタル世代への利用促進のため、**オンライン上で事業の申し込みができるシステムを活用**。



3. 取組による成果や効果

【オンライン事業】

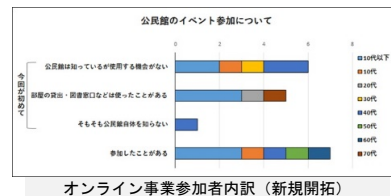
- 新しい利用者層の開拓 ●コロナ禍での「**新しい生活様式**」に適用した事業の立案
- 社会人や子育て世代など「オンラインだから参加できる」といった参加者が多く、コロナ禍での「非接触」や「非対面」は、公民館にとって**新たなニーズに気づききっかけ**となった。

【公民館でスマホ・タブレットの使い方を支援】

- デジタルデバインドの解消 ●公民館利用したことがない方の利用促進

【船橋市公民館Facebook、公民館HPの変更やオンライン申請システムの活用】

- 新しい利用者層の開拓 ●**HPアクセス数の増加** ●デジタル世代に向けた仕組み作り



オンライン事業参加者内訳（新規開拓）

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 事業参加者向けのアンケートを取ることで、ニーズの把握を行い、開催方法や内容を検討する。
- 令和3年度インターネット使用に関するアンケートにて「端末・機器は持っているが使い方がわからない」が26.1%、「利用したいが、使い方が分からず、端末・機器の購入に踏み切れない」が23%であった。今後の割合を確認するために数年後に再度アンケートを行う。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

時代とともに変化する地域の課題や実情に合わせて、地域の方々にとっての公民館の価値や有り方を模索し、**時代に取り残されぬよう常に新たな公民館を目指していく**。また、利用者視点での運営を心掛け、どうすればより公民館が利用したくなるかを常に意識し、既存のやり方にとらわれることなく、講座の内容やターゲット層に合わせ、最適な学びの機会をつくる。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域の拠点である公民館を幅広い世代に利用してもらい、公民館が**地域の繋がりの場**や**主体的に学習する場**になることを目指す。そのために、新たな利用者層のニーズに合う事業を展開することや、事業の周知方法として、公民館を普段利用しない方に向けたPR方法を検討する。

歴史・文化・芸術の集う地域の拠点を目指して

一宮町中央公民館



公民館2階歴史資料展示



公民館1階ロビーの展示ス

公民館の沿革・年表

- ・昭和38年 文部省委嘱成人学校中に「一宮町成人学校」の記載
- ・昭和48年 一宮町中央公民館開館
- ・昭和49年 同館にて第26回千葉県公民館研究大会開催
- ・平成26年 教育委員会事務局が同館より移転
- ・令和3年 同館2階ロビーに「歴史資料展示室」開室
歴史講座「崇文館歴史講座」開講

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 歴史資料展示室の様子
令和3年9月開催の企画展の様子。戦前の漫画家・北沢楽天を特集。展示室では約3ヶ月ごとに資料保存や来館者を飽きさせないために展示替えをし、年4回の企画展を開催。
- 公民館1階ロビーの展示
コロナ禍で文化祭が中止となり、発表の場が限られたことをうけ、令和3年10月より、1階ロビーで展示を実施。学校や文化協会と連携し、子どもたちの作品を入れ替わりで展示した。

1. 都道府県名	千葉県	3. 公民館対象人口	12317人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	一宮町	4. 建物設置年月日	昭和48年3月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 216人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 13060人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 300人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 11276人（まちの図書室利用者数）				合計 24,852人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 6人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 9人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（社会教育委員会議）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他（歴史・文化の普及啓発）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（まちの図書室、歴史資料展示室といった図書館・博物館的機能も内包）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 一宮小学校、一宮町文化協会、一宮町社会福祉協議会、総務課、子育て支援課、明治安田生命				

一宮町中央公民館

OPEN 日・月・祝：8:30~17:00、火~土：8:30~21:00 H P <https://www.town.ichinomiya.chiba.jp/info/shisetsu/kouminkan.html>
 TEL 0475-42-4576 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 一宮町には公民館を含めて5か所の社会教育施設があるが、博物館・図書館・文化ホール・生涯学習センターのような施設はなく、「社会教育」の発信拠点としては公民館にその役目が期待されている。
- 上記の町に「ない」施設がほしい、という住民ニーズもあるが、既存の公民館を「上手く」「効率よく」運営し、博物館・図書館機能も有する場所とすること。これが今の町の公民館に求められている姿であると感じ、環境整備や事業実施に取り組んできた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【歴史・郷土史を学ぶ事業の展開】

町には博物館のような施設がないが、町名の由来でもある上総国一之宮・玉前神社が鎮座し、歴史と伝統ある地域である。そのため、展示施設や学習機会を求めるニーズも多く、近年は講座を中心に普及啓発事業を進めてきた。平成30年度には郷土の偉人である加納久宜公の没後100年記念の5回にわたる連続講座を開催。延べ参加者219名に及び、翌年に開催したシンポジウムでは68名の方に参加をいただいた。令和3年度からは幕末に一宮にあった藩校の名前を冠した「崇文館歴史講座」を開講、年7回、延べ70名の参加があった。講座は参加者の希望に沿ったテーマで各回一宮の歴史を網羅的に細かく見ていった。この講座はこれまでの「教える」という一方の講座の側面だけでなく、「人材育成」や歴史を通して町のこれからを考える「まちづくり」といった側面も持ち合わせた講座としていく予定である。また、平成28年度からは展示ケース2台を用いて図書室内やロビーで不定期にミニ企画展を実施、小さいながらも実物の町の歴史資料に触れる機会を創出した。この取り組みを続けた結果、令和3年からは常設の「歴史資料展示室」を開室、「飽きさせない」「リピーターを増やす」工夫として約3ヶ月ごとに展示替えを行っている。

【学校・他団体との連携によるロビー展示】

コロナ禍でイベントの多くが中止となり、発表の場が限られたことを受け、町内の小学校の子どもの作品を公民館1階ロビーで展示。学校や文化協会、社会福祉協議会と連携しながら、それぞれが行っている作品展などの事業の展示会場として公民館を提供した。



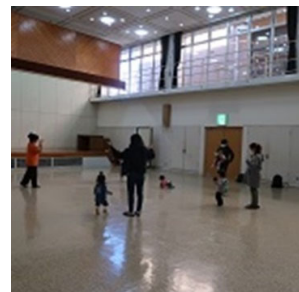
文化財講座の開催(2020)



文化協会主催の児童作品展

3. 取組による成果や効果

- ・歴史資料展示室の開室により、これまで公民館に来たことがない方が来館するようになった。
- ・町の歴史の普及啓発事業を継続的に行ったことにより、町民の方々の町の歴史への認識、興味関心が増加。令和4年度から昭和39年(1964)に刊行された『一宮町史』の再編さん事業を開始する大きな原動力となった。
- ・学校や他団体と連携したロビー展示の開催により、子どもやその保護者が展示を見学するために来館。その方々が図書室に立ち寄るケースも散見。
- ・これまで公民館を利用したことがない人を徐々に呼び込むことが出来ている。



公民館教室「リトミック教室」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

講座ごとにアンケートを実施。次年度行う講座等に聞いてみたいテーマや意見を反映するよう努めている。事業については教育委員会議や社会教育委員会議、文化財審議委員会議に随時状況を報告、会議内での意見も事業に取り入れている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

各種の公民館教室や館の環境整備を通して、「使いやすい」「明るい」生涯学習の場としての公民館にすることを目指している。利用者のニーズに応じて事業を考え、コロナ禍であっても安全に学び、活動できる環境の整備を心掛けている。これからの「withコロナ」の社会に向けて、人々の「つどい」の場として、地域の歴史・文化・芸術の活動の拠点でありたい。



コロナ前の講座の様子。人々の「つどい」の場

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「人材育成」「まちづくり」という視点を新たに加えることで、官民協働での新たな事業を考えていきたいようにしたい。「歴史と文化ある町」を享受できる町、その発信拠点としての公民館を目指していきたい。また、これまで希薄だった学校との連携も徐々に進み始めている。様々な世代の人々が集い、参加できる事業を検討、展開していきたい。



公民館全体像

オンライン配信によるボランティア活動支援

千葉県生涯学習センター



ボランティアによる合唱を配信支援している様子



公民館で配信された落語を聴く参加者の様子

生涯学習センターの沿革・年表

【平成13年】 千葉市中央図書館・生涯学習センター開館
生涯学習センター管理運営を、千葉市教育振興財団が受託
【平成17年】ちば生涯学習ボランティアセンター開設
【平成18年】 第1期指定管理開始（5年間）
以後、現在（第4期 令和3年度～7年度）にかけて継続
【平成30年】 千葉市公民館（47館）の千葉市教育振興財団による指定管理開始（～令和4年度 5年間）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

生涯学習指導者養成事業の一つである「ちば生涯学習ボランティアセンター」の運営について、コロナ禍においても継続できるスタイルを模索した。
同時配信の技術を用いて、対面リスクを最小化することで、ボランティアの皆さまと、ボランティアを依頼する各施設（特に高齢者施設）の安心安全を確保した。
対面の活動は、1対1が基本であったが、この技術の応用により、1対複数（施設）も可能となり、ボランティアの活動を、より幅広く、多くの方々に届ける支援が可能となった。

1. 都道府県名	千葉県	3. センター対象人口	約98万人（市人口）	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN（Wi-Fi等）
2. 市区町村名	千葉市	4. 建物設置年月日	平成13年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	35台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（千葉市教育振興財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 14442人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 121939人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人（ ）				合計 136,381人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 35人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 6人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 （ 職員のうち社会教育主事有資格者の数 10人 職員のうち社会教育士の数 0人 ） 合計 41人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（年1回生涯学習センター利用者懇談会を開催）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 弁天保育所、市PTA連絡協議会、千葉県高校演劇連盟、立正大学、明治安田生命保険相互会社、消防音楽隊、消費生活センター、園芸協会、加曽利貝塚博物館ほか				

千葉県生涯学習センター

OPEN 9:00～21:00

H P

<https://chiba-gakushu.jp/>

TEL 043-207-5820

SNS

公式Twitter・公式Facebook



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

生涯学習センターでは、市民同士が共に学びあい、学びの輪を広げるための「ちば生涯学習ボランティアセンター」を運営している。しかしコロナ禍を受け、ボランティアをする方々にとっても、またボランティア活動を依頼する側にとっても、対面での講座やイベントの開催は、新型コロナの感染リスクが高く、自粛をせざるを得ない状況にあった。これまでも高齢者施設からは、音楽演奏や落語などの演芸披露について、多数のボランティア活動の依頼があり実施することで好評を得ていたが、これも実施できない状況が続いていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

新しい生活様式にも対応し、コロナ禍にあっても、「ちば生涯学習ボランティアセンター」に登録されたボランティアの活動を止めることなく支援する手段として、Zoomを活用したオンラインでの開催を実現した。以下、主な特徴。

①感染リスクを回避したボランティア活動の実現

これまでもボランティア登録者の活動紹介ならびにスキルアップを兼ねた「ボランティアセンター登録者紹介講座」を実施していたが、これをオンライン配信で実施。

②感染リスクを回避した会場設定

メイン会場は無観客（または少数定員での実施）。サテライト会場は有観客。

③オンラインの強みを活かした、同時配信による複数会場での開催

市内高齢者施設、公民館での複数同時開催

④コロナ禍における笑顔を届けることの重要性

音楽や落語を通じて、人を和やかに笑顔にできる行為は、ボランティア活動の醍醐味であり、かつ、コロナ禍で特に大きな制約がある高齢者にとっては、とても望まれていた。



（メイン会場）演奏の配信



（サテライト会場）高齢者施設の様子

3. 取組による成果や効果

ちば生涯学習ボランティアセンターのコーディネートによるボランティア活動や、学習や娯楽の場を、コロナ禍においても継続発展することができた。

①ボランティア活動依頼件数の増加

令和元年度：262件、令和2年度：123件、令和3年度：341件

②安全安心なボランティア活動の場の提供

「ボランティアセンター登録者紹介講座」のオンライン開催数 令和3年度：10件

③高齢者施設への安全安心な開催手段の確立

高齢者施設（老人ホーム等）へのオンライン配信数 令和3年度：8件



通常のボランティアコーディネートの様子
左：ボランティア、中央：ボランティアコーディネーター、右：活動依頼者（施設）
ときには、コーディネートもオンラインで実施

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

映像・音声・配信技術の問題については、絶えず現場での検証、及び都度の改善を図ってきた。配信のためのノウハウと入念な準備は不可欠であり、今後はよりセンター職員全体での講座配信のノウハウの共有を図る予定。

また、千葉市には47館の公民館があり、同じ財団で運営している（指定管理者制度）ことから、現場レベルでの連携を図るため、センターが企画する公民館職員研修のメニューとして「オンライン配信機材接続研修」（令和3年度）を実施した。

5. 生涯学習センターとして大切にしていること、大切にしている考え

コロナ禍を受けて急速に普及が図られてきたオンライン技術であるが、あくまで手段であって目的ではない。センターとしては、その技術を最大限に活用しつつ、目的であるボランティア活動によって得られる充実感や、これまでどおり参加者が、演奏や落語・演芸を見たり聞いたりすることで、楽しみ笑顔になれる姿を大切にしていきたいと考えている。



演者と観客を分けた落語講座

6. これから生涯学習センターをどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

Zoom配信により、一度に10カ所を超える高齢者施設や公民館での同時開催も可能となった。参加者においては、自由に好きな施設、または最寄りの施設を選んで足を運び、講座やイベントを受講することができる。今後はより市内の多くの施設からの参加を促し、またパソコンやスマホで、自宅からも参加できる仕組みも検討していきたい。



公民館から高齢者施設への配信支援

みんな笑(わ)が子だ やわたっ子

平塚市立八幡公民館



やわた子ども村ひろば囲碁・将棋・オセロ大会



公民館まつりでの動画による芸能発表

公民館の沿革・年表

- ・昭和53年 平塚市立八幡公民館開館
- ・昭和58年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館表彰
- ・平成29年 外壁やトイレ等の大規模修繕
- ・令和3年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館表彰

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

・やわた子ども村と共催で行っている「やわた子ども村ひろば囲碁・将棋・オセロ教室」。地域の大人に指導を受けながら、**異学年の子どもたちが交流**を図っている。年に2回大会が行われ、その際には競技を楽しむとともに1年間で培った習熟度が測られる。（写真左上）

・毎年3月に「公民館まつり」を開催している。コロナ禍では、当日参加が難しい方のため、前撮りした**動画による発表**をしたり、**360度カメラで撮影した会場風景をネット配信**したりと、工夫をした取り組みをしている。（写真左）

1. 都道府県名	神奈川県	3. 公民館対象人口	9220人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	平塚市	4. 建物設置年月日	昭和53年3月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	18台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 403人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 14121人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計		14,524人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館運営委員会)					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (七夕飾りをはじめ、館内ロビーに季節を感じる装飾を施している。)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 八幡小学校、神明中学校、八幡自治会連合会、やわた子ども村、八幡地区町内福祉村、八寿会、八幡地区体育振興会、八幡地区社会福祉協議会、八幡地区民生児童協議会など	

平塚市八幡公民館

OPEN 9:00~22:00

H P https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/gakushu/page-c_01831.html

T E L 0463-23-5528

S N S やわた地域情報局 <http://hiratsuka.johokyoju.net/area/yawata/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

・八幡公民館はJR平塚駅から程近い場所にあり、住宅街、大きな工場、公共施設（美術館・警察署等）がある。利便性が高いことから、新しく住居を構える方も多く、昔からの結びつきの強固さを、新たな住民の皆さんにも作っていただきたいという願いがある。特に子どもたちについては、大きな建物が立ち並び、交通量の多い道路がある中で気軽に行き交うことに負担があり、学校以外で集う場が少ない。積極的に大人が動いて、居場所や励みをつくることが求められている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【やわた子ども村との共催事業】

・地域による子育てをと、有志が集まり、平成17年に小学校内の余裕教室を借りて「やわた子ども村」を開設。子どもたちが色々な世代の人と出会いながら、学ぶ場となっている。公民館とのつながりは深く、普段の連携のほか、毎月3回の「囲碁・将棋・オセロ教室」や、夏休みの「ペットボトルロケット飛ばし」などを共に実施し、子どもの居場所づくりに取り組んでいる。

【だるまの絵付け教室】

・地区内にある創業百五十余年のだるま屋さんを講師に迎え、小学生を対象に、色付けされていない「だるま」に色塗りや装飾をする教室を実施している。地域で守り続けられている伝統の技に挑戦し、**伝統を重んじる心と、地域愛を育てている。**

【集まらない事業を実施】

・**コロナ禍でも子どもたちに学びの場をとの思いで、集まらない事業を実施。**コロナの影響が激しかった令和2年度でも6つの事業を展開し、「カブトムシを育てよう」の事業ではカブトムシの幼虫を配布し、子どもたちに観察記録をつけてもらい、その記録を館内に掲出した。

【地域でつくる季節の飾りつけ】

・公民館のロビーを使用して、七夕飾り、クリスマスなど季節の装飾を展開している。**制作や材料提供に地域の方が参加し、**来場する子どもたちの笑顔に期待を膨らませている。



ペットボトルロケット飛ばし



だるまの絵付け教室

3. 取組による成果や効果

・ロビーでの「季節の飾りつけ」について、**装飾を見た公民館の利用者から「元気が出た」「公民館に来ると楽しくなる」などの声をたくさんいただいた。**また、協力してくれる団体の方も増え、次の制作に携わることを楽しみにしていただける。

・日ごろの活動から、公民館に来ること、地域の大人と関わることの垣根が低くなり、**放課後や休日に来館する子どもが増えた。**

・公民館まつりで動画を活用し、コロナ禍でも公民館利用団体の成果発表の機会をつつたことで、各団体が目標をもって、活動に取り組むことが継続できた。これにより、さらなる意欲を持って取り組む団体の姿が見え、**次の目標に向かう推進力が生まれた**と感じる。



みんなで作る季節の飾りつけ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・自治会ほか各種地域団体の代表者、小学校長、小・中学校PTAの代表者で構成された公民館運営委員会を年5回開催。

・八幡地域の全団体を集めて、年度の事業計画発表、地域課題について話し合う会議を開催。

・八幡小学校全児童に向けた公民館事業でやってほしい事などのアンケートを実施し、意見を地域団体と共有し活動に生かしている。公民館事業で公民館主事が小学校に来館する際には、**学校でのお昼放送の時間に主事が公民館の紹介**をしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

・**子どもたちを地域の一員として活躍させよう**と、集う場、育つ場をつくり、また八幡地区の伝統にふれ、文化を未来につなぐ活動を大切にしている。

・公民館の施設の枠にとらわれず、地域課題解決に向けて「今、何ができるか」を、やわた子ども村をはじめ地域団体と子どもたちと協力し形にしていく。



折り紙の指導は地域の方から

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

・**公民館に集めるのではなく、公民館の方から子どもたちに会いに行く、**場所にとらわれない活動や事業を展開していきたい。また、八幡地区は住宅街で、農業や生き物と触れ合う機会が少ないので、そういった機会を多くつくりたい。



カブトムシの観察記録展示



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

三条市の生涯学習課では、平成27年より「きっかけの一步事業」として、「何かやってみよう」と考えている市民へ、一歩踏み出してやりたいことや楽しみを見つけてもらうために、様々な公民館講座を実施している。

嵐南公民館では、絵画・書道・俳句などの作品制作の講座を数多く開催していたが、音楽系のものはほとんどなかった。約260人を収容できる「大集会室」には発表用ステージがあり、グランドピアノも設置されているが、それらを使用する講座がなく、活用しないままになっていた。地域住民からの音楽講座開催の要望と、「宝の持ち腐れ」を解消したいという職員の思いもあり、**市民が気軽に音楽に楽しんでもらうための機会を定期的に設ける**ことにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【音楽を身近に感じる公民館へ（多様な文化体験活動）】

上記の背景より、平成29年から公民館講座として、音楽入門教室を開催するとともに、その発表の機会をつくるようにした。様々な楽器や音楽を楽しむことができるよう、公民館主催で年に1回以上の音楽鑑賞会を開催している。

＜地域の演奏家による音楽鑑賞会＞

- ・平成29年「七夕コンサート」
- ・平成30年「秋の夜長コンサート(篠笛)」、「フルート&ピアノ鑑賞会」、「エノケン終活唄めぐり」
- ・令和元年「冬の民謡鑑賞会」、「嵐南ジャズナイト」、「ゴスペルコンサート」
- ・令和2年「ミュージックベルコンサート」
- ・令和3年「リコーダー&チェンバロアフタヌーンコンサート」

＜講座受講者や公民館利用サークル団体発表の場としての音楽鑑賞会＞

- ・平成29年～令和元年「愛唱歌をうたおう発表会」、サークル団体による「芸能発表会」

＜音楽鑑賞会に関係する公民館講座＞

- ・平成29年～令和元年 音楽入門教室として「愛唱歌を歌おう」を開催。全14回実施。令和3年度からは、地域のサークルとして公民館講座から独立し、公民館を会場に活動している。
- ・平成元年 きっかけの1歩事業「ジャズ鑑賞初心者教室」を開催。全3回実施。
- ・令和2年～ 音楽入門教室として「民謡入門教室」を開催。全14回実施。



冬の民謡鑑賞会



ミュージックベル

3. 取組による成果や効果

ジャズやゴスペルなど、普段触れないような音楽鑑賞の機会を提供したことで、住民の音楽に対する関心や教養の幅を広げることに成功した。そして、**公民館利用の少ない若年層を、公民館に呼び込むことができた。**

また、新たな自主音楽サークルを生むきっかけづくりにもなった。

新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の為、令和2年以降は回数を減らし、かつ人数制限を行って開催しているが、感染が終息した際には、以前のように頻回に音楽イベントを開催したいと思っている。



ゴスペルコンサート

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

アンケート調査をもとに、公民館協力員会議で住民の音楽ニーズを意見交換している。アンケート結果などを、もとに今後の事業計画を精査していく。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「音楽鑑賞会」は、音楽を体感し、歌や演奏の楽しみを共有することのできる良い機会である。知らない音楽に触れることで教養を深めたり、同好の士を見つけて親睦を深めたりすることもできる。これからも鑑賞会を積極的に開催したり、音楽勉強会や音楽講座を開いたりして、「**音楽を身近に感じられる公民館**」として認知してもらいたい。



ジャズ鑑賞初心者教室

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

本格的な管弦楽の演奏会から、**未就園児も入場できるような音楽会**、ハンドパンやエスニックの**珍しい楽器の演奏会**など、多様なジャンルの音楽を皆さんに楽しんでもらうために、市民の需要や演奏者の情報にアンテナを張り、より良い事業を計画できるように心がける。そして、「**音楽を通じて、人と人、人とグループ、グループと地域を結び役割を担っていく地域の拠点**」としていきたい。



ハンドパン

楽しいぞ！公民館

五泉市公民館



公民館ワークショップ開催！



みんなで楽しくストレッチ♪ (ごせん女性学級)

公民館の沿革・年表

- ・昭和25年 五泉町公民館設置
- ・昭和33年 五泉市中央婦人学級発足
- ・平成18年 五泉市と村松町合併

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

●公民館ワークショップ ウェルカムボード
6・8・10・12・2月に計画をしている公民館ワークショップ。この日はちょうど10/31だったため、ハロウィンバージョンのウェルカムボードを作成した。受付では「トリック オア トリート」と言ってくれた子供達にちよつとしたプレゼントを用意し、イベントを楽しんだ。

●ごせん女性学級
毎月1回、自分たちで計画した様々な学習(*)を行っているごせん女性学級。この日はキックボクシングジムの先生をお招きし、椅子に座りながら出来る「お手軽ストレッチ」を体験。先生の軽快なトークやゲーム方式のストレッチで会場内には終始笑い声が響いていた。
※陶芸、議会傍聴、移動学習、防災食体験、手芸、など

1. 都道府県名	新潟県	3. 公民館対象人口	47,724人 (4/30現在)	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	五泉市	4. 建物設置年月日	昭和25年	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2122人 <input type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 0人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 () 合計 2,122人				
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 5人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 6人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (公民館としての建物はなく、五泉市総合会館の事務所の一画を公民館として運営。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (高校ボランティア部、子ども会連絡協議会、青少年健全育成協議会、陶芸協会)				

五泉市公民館

OPEN 8 : 30 ~ 17 : 15 H P <https://www.city.gosen.lg.jp/> (五泉市HP)
 TEL 0250-43-4190 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・コロナ禍の中で様々なイベントが開催できなくなったこと、家庭で過ごす時間が増えたことを受けて、親子が家庭内で楽しく過ごすことができるようなコンテンツを提供することができないかと考えた。
- ・公民館講座は、受講者が高齢化・固定化し新規の受講者が増えない状況が続いていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【公民館ワークショップ】

令和2年度から工作と一般教養講座等の体験ができるワークショップを同日で開催。

『身近なもので楽しむ工作』

親子でもの作りを体験する機会を提供することを目的として、市の達人バンクに登録している地域の方を講師に迎え、身近にある材料を使い、家庭で簡単に取り組める工作を紹介し体験した。

令和2年度は4回にわたり56人の親子からの参加。ビーズやどんぐり、松ぼっくりや紙粘土などを使った工作を紹介し体験した。

令和3年度は3回にわたり41人の親子からの参加。クリアファイルを使ったうちわやお菓子の空き袋を使ったポーチ作りなどを体験した。

『講座体験』

市民の趣味・興味の幅を広げるため、体験型講座を実施した。

令和2年度は既存の講座（生花やフラワーアレンジメント）のほか、ニーズがあった陶芸やプログラミングの体験講座など4回実施し、69人が参加した。

令和3年度はボードゲームや竹細工、コーヒー講座など3回実施し、64人が参加した。



『木の実を使った工作』の様子



『コーヒー講座』の様子

3. 取組による成果や効果

- ・ワークショップの会場として数か所の公共施設を利用することで、各施設の周知ができた。
- ・参加者の年齢層は10代未満・10代、30代～40代が多く、若い世代にアピールすることができた。
- ・多世代・参加者同士の交流ができた。
- ・アンケートを実施した結果、満足度が高かった。定期的開催を希望する声が多かったため継続事業とし、ニーズのある講座の定期開催や関心の高かった内容を盛り込んでいくこととした。



載 F a c e b o o k に記事を掲

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・公民館運営審議会を年2回開催している。
- ・多様な意見や各活動のアンケート結果を踏まえて公民館の事業の改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・青少年がさまざまな活動・体験をすることで、社会や文化にふれる機会を提供し、豊かな人間性、協調性、創造力を養い、社会参加を考えるきっかけとしたい。
- ・生涯各期にわたる市民の学習要求に応えていきたい。



『陶芸体験』の様子

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・急速な少子高齢化や感染症の流行等により、地域における人と人のつながりが希薄になっている。今後も体験活動や対面による講座等を通して人と人の交流が生まれるよう、その機会を提供し続けていきたい。



『ボードゲーム体験』の様子